

目次

* 短期大学の状況	1
《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》	3
《Ⅱ 教育の内容》の記述及び資料等について	6
《Ⅲ 教育の実施体制》の記述及び資料等について	28
《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》の記述及び資料等について	35
《Ⅴ 学生支援》の記述及び資料等について	54
《Ⅵ 研究》の記述及び資料等について	61
《Ⅶ 社会的活動》の記述及び資料等について	70
《Ⅷ 管理運営》の記述及び資料等について	72
《Ⅸ 財務》の記述及び資料等について	81
《Ⅹ 改革・改善》の記述及び資料等について	83

* 短期大学の状況

(1) 平成17年度から19年度までの学科ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、
 収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%)

(在籍者数は毎年度5月1日時点)

学科・専攻名		H17年度	H18年度	H19年度	備考
生活 科学科	入学定員	100	100	100	
	入学者数	102	77	92	
	入学定員 充足率(%)	102.0%	77.0%	92.0%	
	収容定員	250	200	200	
	在籍者数	192	175	166	
	収容定員 充足率(%)	76.8%	87.5%	83.0%	
アート ・デザイン 学科	入学定員	60	60	60	平成17年度 入学生までは、 生活デザイン 科
	入学者数	39	68	83	
	入学定員 充足率(%)	65.0%	113.3%	138.3%	
	収容定員	140	120	120	
	在籍者数	103	105	149	
	収容定員 充足率(%)	73.6%	87.5%	124.2%	
看護 学科	入学定員	80	80	80	
	入学者数	91	90	88	
	入学定員 充足率(%)	113.8%	112.5%	110.0%	
	収容定員	240	240	240	
	在籍者数	272	278	267	
	収容定員 充足率(%)	113.3%	115.8%	111.3%	

学科・専攻名	H17年度	H18年度	H19年度	備考	
専攻科 助産学 専攻	入学定員	15	15	15	
	入学者数	17	17	17	
	入学定員 充足率(%)	113.3%	113.3%	113.3%	
	収容定員	15	15	15	
	在籍者数	17	17	17	
	収容定員 充足率(%)	113.3%	113.3%	113.3%	

(2) 平成17年度～19年度に入学した学生の出身県別人数及び割合

(各年度 5月1日現在)

県・地域等	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
群馬県	150	60.2%	161	63.9%	164	62.4%
栃木県	45	18.1%	40	15.9%	40	15.2%
茨城県	4	1.6%	3	1.2%	3	1.1%
埼玉県	12	4.8%	14	5.6%	11	4.2%
新潟県	12	4.8%	10	4.0%	8	3.0%
長野県	8	3.2%	8	3.2%	13	4.9%
東北地方各県	8	3.2%	9	3.6%	11	4.2%
南関東各県	3	1.2%	2	0.8%	3	1.1%
その他地域	6	2.4%	4	1.6%	6	2.3%
その他	1	0.4%	1	0.4%	4	1.5%

(3) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員

(平成19年5月1現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員
桐生第一高等学校	群馬県桐生市小曾根町1-5	600	1,800
桐生短期大学附属幼稚園	群馬県桐生市小曾根町1-2	40	120

《 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念とその意味するところ。及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景

建学の精神・教育理念は「社会に出て役立つ人間の育成」である。

明治34年に本学園の礎である桐生裁縫専門女学館を創設した時、創設者は、明治の女性でありながら当時の社会通念を超えた「女性の経済的自立」をめざし、「実学実践」の教育方針により、高い教養と確かな技術の修得を實踐して、地域産業を支える多くの人材を世に送り出した。

桐生短期大学は、「実学実践」の教育方針の下、地域社会で有用な人材を輩出してきた桐丘学園の伝統を引き継ぎ、「社会に出て役立つ人間の育成」を建学の精神・教育理念として、昭和38年に設立された。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているか。

本学への入学希望者や、本学の関係者に配布するための「学校案内」には、学園創設時の建学の理想・教育方針と、桐生短期大学の教育理念・教育目標を示している。

また、新入生に配布している「学生便覧」にも、学園の建学の理想・教育方針および、桐生短期大学の教育理念・教育目標について掲載している。

新入生には、入学後、新入生全員を対象とした「オリエンテーション」において、桐生短期大学の建学の理念、教育方針等を説明している。

新任教職員に対しても、勤務初日に実施する新任教職員オリエンテーションのなかで、学園創設の経緯、建学の精神、桐生短期大学の歴史、建学の理念、教育方針等を説明している。

【教育目的、教育目標について】

(1) 全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標。

1) 生活科学科

産業社会構造の変化、情報通信システムの進歩、ニューテクノロジーの発展など人間生活をとりまく環境はさらに発展し、大きく変動しつつある。国際化や情報化、自然や環境問題も我々の「生活」と深く関連している。生活科学科では、我々の生活を身近な問題から、グローバルなテーマに至る事項について、実践を重視して幅広く研究し「健康」「栄養」「福祉・医療・IT等のビジネス」の分野で活躍できる人材の養成を目的とし、2つの履修コースを設定している。

①健康栄養コース

健康と栄養をキーワードに幼児・児童・生徒の健康を考え、保育園の栄養士や栄養教

論を目指す「栄養教育」、医療・臨床の現場で栄養管理の担い手を目指す「臨床栄養」、栄養やスポーツの面から健康づくりをサポートする栄養士を目指す「健康栄養」の3つの履修モデルに分かれて各分野で活躍できる人材の育成を目指している。

② ビジネスコミュニケーションコース

「福祉」と「医療」と「IT」を統合し、様々なビジネスシーンで活躍できる技術・知識・コミュニケーションスキルを身につけることを目的としている。履修モデルには「医療福祉ビジネス」「ITビジネス」「地域グローバルビジネス」の3つを設定している。

2) アート・デザイン学科

ますます、多様化する現代の生活様式ーライフスタイルーに欠かせない分野にデザインがある。本学科では人々が快適に過ごせる環境づくりを目指すインテリア分野、新聞・雑誌の広告、出版物、企業のコーポレート・アイデンティティなどを研究・実践するグラフィックデザインの分野、生活の基盤である衣食住の中でも特に個人の趣味や嗜好性が反映されるファッション（衣）の分野、デザインの分野のなかでも芸術性を追求するビジュアルアートの分野について、それぞれの創造力と感性、技術をもつデザイナーやアーティストの養成を本学科の目的とする。

① インテリアデザインコース

住宅設計や公園や町づくり等空間をトータルプロデュースできる知識と技術を習得する。

② グラフィックデザインコース

デザインの現場で活躍できる技術の習得をする。ポスター・パンフレットの制作、広告の企画デザインCG等実践的に学ぶ。

③ ファッションデザイン

服飾デザインの分野で活躍できるデザイナーの育成を目的としている。服のデザイン、パターンメイキング、CAD、ネイルアート、ヘアメイク等トータルに学びファッションショーにも積極的に取り組む。

④ マンガ・イラスト・絵画コース

マンガ・イラストレーションなどの新しい芸術や、油彩画、水彩画、版画などの純粋芸術分野まで広く学習し、様々なタイプのクリエイターの養成を目指す。

3) 看護学科

本学園の教育方針である「実学実践」による教育を行い、学生の自主性・積極性を踏まえ、人間の尊重、自己啓発を基盤とした人間性豊かな看護職を育成し、人々の健康の向上に貢献することを看護学科の理念に掲げ、看護職に必要な基礎的知識・技術・態度およびこれらを統合して看護実践できる能力を養い、生涯にわたり、看護学の発展に寄与できる人材を育成することを目的とする。

① 看護職に必要な人間尊重の精神を理解し、看護観の確立をはかる。

② 科学的思考に基づいた看護技術を習得し、実践能力を高める。

③ 看護実践に必要な、判断力、問題解決能力、応用力を高める。

④ 看護に関する知識に注目し、継続的に学習・研究できる能力を培う。

⑤ 国際化や地域の特性に対応できる能力を養う。

⑥ 看護職としての社会的責任を認識するとともに、倫理観の確立をはかる。

⑦ 人間的に調和のとれた社会人としての成長をはかる。

高齢化社会を迎え、在宅看護、地域医療の役割が高まってきた現在において、また、医療技術の革新的進歩にともない、看護師にもこれまで以上に高度な知識と技術が求められている。このような現状を踏まえ、病院等の施設をはじめ地域医療など様々な分野で活躍できるよう、高度な看護技術、判断力・問題解決能力を有し、さらには看護の専門職としての意識と豊かな心・人間性を身につけた看護師を養成することを目的としている。

4) 専攻科助産学専攻

専門性の高い助産師にふさわしい対象理解を基盤に、必要とする知識技術を修得し、社会的使命を自覚して実践できる能力を養い、生涯にわたり助産学の発展に貢献できる態度を養う。

- ① 助産師職の発達過程を通して、社会的責務を理解し、役割遂行の基礎となる助産観及び倫理観を確立する。
- ② マタニティに関わる知識と技術を修得し、周産期にある人々に的確な支援・指導できる実践力を養う。
- ③ あらゆる発達段階にある人々のセクシャリティに関する発達課題や健康問題に対応できる実践力を養う。
- ④ 国際的視野をもって地域社会の発展に貢献できる姿勢・態度及び実践力を養う。
- ⑤ 生涯にわたり、自己研鑽・自己啓発に努めるとともに、専門職業人としての見識の向上を意図できる態度を養う。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を学生や教職員に周知する方法、また学外に公表する方法。

学生に対しては新入生オリエンテーション後の各学科別オリエンテーションにおいて、カリキュラム、履修方法の説明時に教育目的や教育目標についての説明を行っている。

教職員については、教授会、学科連絡会において話し合い、共通理解を図っている。また、4月の新任教職員研修において、各学科ごとに説明をしている。

外部に対しては、学校案内やホームページにおいて、学科・コース説明の中で、各学科・コースの教育目的について示している。

【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検の概要。また点検を行う組織、手続き等。

建学の精神や教育理念の解釈の見直しに関しては、自己点検・評価委員会で行われることになっているが、現状では見直しは行われていない。

教育目的・教育目標については、各学科の連絡会議で、学科長を中心に専任教員が意見交換を行い、それを受けて、教授会・教務委員会等で検討することとなっている。教育目的・教育目標の検討については、教務委員会の専門部会における各学科でのカリキュラム検討の際に、あわせて実施される。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施における、理事会または短期大学教授会の関与。

本学園の建学の精神は、学園所属の各学校に生かされており、短期大学は建学以来、「社会に出て役立つ人間の育成」を教育理念として、発展してきた。短期大学の改組転換等の過程で、その都度理事会で確認され、その教育理念の下、短期大学は発展してきた。

建学の精神・教育理念に基づく教育目的・教育目標は、各学科の会議等で点検し、時代や社会のニーズと比較して、これまでの教育目的・教育目標では不都合である場合には、各学科からの提案により、教授会で審議することとしている。その結果を学長が理事長・理事会に報告・提案することとしている。

【特記事項について】

(1) その他建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していること

教育目的に揚げる人材育成教育を推進するために多彩な学校行事を設定し、学生の参加を促している。

また、学生の自主活動であるサークル・ボランティア活動等でも建学の精神・教育理念・教育目標を活動内容に反映させている。

《Ⅱ 教育の内容》の記述及び資料等について

(1) 学科等の現在の教育課程

生活科学科(健康栄養コース)

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
基礎 科 目	歴史と文化	○				2					○	75	
	くらしと色彩	○				2					○	56	
	人間と心理	○				2			○			66	
	くらしと憲法	○				2			○			32	
	現代社会と経済	○				2					○	66	
	くらしと統計	○				2			○			7	
	くらしと現代科学	○				2			○			43	
	情報社会とくらし	○				2					○	73	
	生活と社会		○			2					○	85	1年
	生活と社会		○						○			62	2年
	くらしと英会話	○				2			○			41(2)	
	ことばと文化	○				2				○		33	
	健康とスポーツ	○	○			2			○			15(2)	
専門 科 目	生活科学概論	○			2			○				86	
	生活環境論	○			2			○				86	
	基礎栄養学Ⅰ	○			2			○				85(2)	
	社会福祉論	○			2			○				85(2)	
	情報処理	○			2			○				0	
	現代ビジネス論	○			2					○		62	
	基礎ゼミⅠ		○		1			○				7	
	基礎ゼミⅡ		○		1			○				6	
	基礎ゼミⅢ		○		1			○				6	
	基礎ゼミⅣ		○		1			○				5	
	基礎ゼミⅤ		○		1			○				8	
基礎ゼミⅥ		○		1			○				6		

専	基礎ゼミⅦ		○		1			○			5		
	基礎ゼミⅧ		○		1			○			5		
	基礎ゼミⅨ		○		1			○			6		
	基礎ゼミⅩ		○		1			○			8		
	専門ゼミⅠ		○		1			○			7		
	専門ゼミⅡ		○		1			○			6		
	専門ゼミⅢ		○		1			○			6		
	専門ゼミⅣ		○		1			○			5		
	専門ゼミⅤ		○		1			○			8		
	専門ゼミⅥ		○		1			○			6		
	専門ゼミⅦ		○		1			○			5		
	専門ゼミⅧ		○		1			○			5		
	専門ゼミⅨ		○		1			○			6		
門	専門ゼミⅩ		○		1					○	8		
	公衆衛生学	○				2				○	62(2)		
	解剖学	○				2			○		87(2)		
	生理学	○				2			○		85(2)	1年	
	生理学	○							○		62(2)	2年	
	生化学	○				2		○			85(2)		
	生理生化学実験			○		1		○			62(2)		
	生活活動論	○				1		○			62(2)		
	環境生理学	○				1		○			62(2)		
	食品衛生学	○				2				○	87(2)		
	食品衛生学実験			○		1				○	62(2)		
	食品学	○				2		○			87(2)		
	食品学実験Ⅰ			○		1		○			62(2)		
	食品学実験Ⅱ			○		1		○			85(2)		
	食品加工学	○				2		○			62(2)		
	基礎栄養学Ⅱ	○				2		○			85(2)		
	応用栄養学(栄養学Ⅲ)	○				2		○			62(2)		
	栄養学実験			○		1		○			62(2)		
	臨床栄養学概論	○				2				○	85(2)		
	臨床栄養学実験			○		1				○	62(2)		
	栄養指導論Ⅰ	○				2		○			87(2)		
	栄養指導論Ⅱ	○				2		○			85(2)		
	公衆栄養学概論	○				2				○	62(2)		
	目	栄養情報処理演習 (統計演習)		○			1		○			62(2)	

専 門 科 目	調理学	○				2		○		87(2)		
	調理実習Ⅰ			○		2			○	87(2)	前期	
	調理実習Ⅰ			○					○	85(2)	後期	
	調理実習Ⅱ			○		2		○		62(2)	前期	
	調理実習Ⅱ			○				○		62(2)	後期	
	給食計画・実務論	○				2			○	85(2)		
	学内実習			○		1		○		85(2)		
	校外実習			○		2		○		62(2)		
	栄養教諭論	○				2		○	○	12		
	食育論	○				1			○	34		
	臨床栄養学各論	○				1		○		5		
	臨床栄養学各論実験			○		1		○		11(2)		
	スポーツ栄養学	○				1		○		19		
	スポーツ栄養学実習			○		1		○		12		
	フードスペシャリスト論	○				2		○		45		
	フードコーディネーター論	○				2		○		27		
	マーケティング	○				2			○	27		
	オフィスワークⅠ	○				2		○	○	25		
	科 目	コンピュータⅠ		○			1		○		75(3)	
		コンピュータⅡ		○			1		○		74(3)	
人間関係		○				2		○		20		
臨床心理学		○				2		○		25		
家庭経営学		○				2		○		0		
住居学		○				2			○	0		
育児学		○				2			○	8		
被服学及び実習		○		○		1			○	3	前期	
被服学及び実習		○		○		1			○	3	後期	
家庭の医学		○				2			○	27		
医療経営学	○				2			○	52			
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○				2		○		12		
	教育心理学	○				2		○		12		
	教育相談	○				2			○	3		
	総合演習		○			2		○		3	前期	
	総合演習		○					○		3	後期	
	教育学	○				2			○	1		
	家庭科教育法	○				2			○	1		
	道徳教育研究	○				1			○	1		
	教育方法論	○				1		○		1		

教 職 に 関 す る 科 目	生徒指導論	○				2				○	1	
	事前・事後指導	○				1			○		1	
	教育実習			○		4			○		1	
	介護等体験実習			○		1			○		1	
	教育学	○				1				○	12	
	教育課程及び教育方法論	○				2				○	12	
	道徳教育研究及び 特別活動の研究	○				2				○	9	
	生徒指導論	○				1				○	3	
	栄養教育実習 事前・事後指導	○				1			○		12	1年
	栄養教育実習 事前・事後指導	○							○		3	2年
	栄養教育実習			○		1			○		3	
	医療保険実務		○			3				○	25	
医 療 係 事 務 格												

生活科学科(ビジネスコミュニケーションコース)

(平成20年5月1日)

科 目 の 種 別	授業 科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
基 礎 科 目	歴史と文化	○				2					○	5	
	くらしと色彩	○				2					○	5	
	人間と心理	○				2			○			3	
	くらしと憲法	○				2			○			5	
	現代社会と経済	○				2					○	5	
	くらしと統計	○				2			○			3	
	くらしと現代科学	○				2			○			3	
	情報社会とくらし	○				2					○	5	
	生活と社会		○			2			○			11	
	くらしと英会話	○				2			○			2	
	ことばと文化	○				2				○		5	
	健康とスポーツ	○	○			2			○			14	

専	生活科学概論	○			2			○		5		
	生活環境論	○			2			○		5		
	基礎栄養学Ⅰ	○			2			○		5		
	社会福祉論	○			2			○		5		
	情報処理	○			2			○		5		
	現代ビジネス論	○			2				○	5		
	基礎ゼミⅠ		○		1			○		2		
	基礎ゼミⅡ		○		1			○		4		
	基礎ゼミⅢ		○		1			○		2		
	基礎ゼミⅣ		○		1			○		3		
	専門ゼミⅠ		○		1			○		2		
	専門ゼミⅡ		○		1			○		4		
	専門ゼミⅢ		○		1			○		2		
	専門ゼミⅣ		○		1			○		3		
	キャリアデザイン論	○				2			○		5	
	キャリアデザイン演習		○			1			○		3	
	ビジネス文書処理		○			2			○		5	前期
	ビジネス文書処理		○						○		5	後期
	門	会計学	○				2			○	11	
		マーケティング	○				2			○	11	
オフィスワーク		○				2		○	○	11		
マネジメントシステム論		○				2			○	5		
プレゼンテーション		○				2		○		7		
コンピュータⅠ			○			1		○		6		
コンピュータⅡ			○			1		○		6		
インターネット			○			1		○		5		
マルチメディア演習			○			1		○		9		
ネットワークコミュニケーション		○				2		○		5		
コンピュータグラフィックス			○			1		○		5		
情報システム論		○				2			○	4		
ネットワークビジネス論		○				2		○		9		
ビジネス英語			○			2		○		4		
国際理解 (グローバルコミュニケーション)		○				2		○		5		
地域経済		○				2			○	11		
地域政策		○				2		○		3		
コミュニケーション論		○				2		○		5		
人間関係		○				2		○		10		
科												
目												

専 門 科 目	臨床心理学	○			2		○		16	
	医療経営学	○			2			○	5	
	福祉ビジネス論	○			2			○	8	
	社会保障Ⅰ	○			2		○		5	
	社会保障Ⅱ	○			2			○	15	
	家庭の医学	○			2			○	17	
	介護Ⅰ	○			2			○	14	
	介護Ⅱ	○			1			○	14	
	介護技術			○	1			○	3	
	介護実習			○	1			○	3	
	食品学	○			2		○		5	
	調理実習Ⅰ			○	2			○	0	
	調理実習Ⅰ			○				○	0	
	家庭経営学	○			2		○		6	
	住居学	○			2			○	4	
	育児学	○			2			○	0	
	被服学および実習	○		○	2			○	1	前期
被服学および実習	○		○				○	0	後期	
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○			2		○		0	
	教育心理学	○			2		○		0	
	教育相談	○			2			○	0	
	総合演習			○	2		○		0	前期
	総合演習			○			○		0	後期
	教育学	○			2			○	0	
	家庭科教育法	○			2			○	0	
	道徳教育研究	○			1			○	0	
	教育方法論	○			1		○		0	
	生徒指導論	○			2			○	0	
	事前・事後指導	○			1		○		0	
	教育実習			○	4		○		0	
介護等体験実習			○	1		○		0		
介護	介護保険実務		○		2			○	8	
医 関 係 事 務 格	医療保険実務		○		3			○	11	

アート・デザイン学科(インテリアデザインコース)

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
基礎科目	美術理論及び美術史	○				2				○	10	
	コミック文化論	○				2		○			10	
	インターネット	○				2			○		4	
	英会話					2			○		11	
	国語表現	○				2		○			4	
	文化人類学	○				2		○			11	
	心理学	○				2			○		11	
	日本国憲法	○				2			○		10	
	体育講義・実技	○	○			1			○		9	
	生活と社会		○			2		○			5	前期
	生活と社会		○					○			5	後期
専門科目	基礎デザインⅠ		○		2					○	11	
	基礎デザインⅡ		○			2				○	11	
	絵画		○		2			○			5	
	工芸		○		2			○			11	
	彫塑		○		2			○			11	
	デッサン		○		2			○			11	
	色彩	○			2					○	11	
	コンピュータグラフィックスⅠ		○		1			○			11	
	コンピュータグラフィックスⅡ		○		1			○			11	
	コンピュータグラフィックスⅢ		○		1			○			5	
	コンピュータグラフィックスⅣ		○		1			○			5	
	コンピュータ理論	○				2				○	3	
	インテリアⅠ		○			2				○	11	
	インテリアⅡ		○			2				○	11	
	インテリアⅢ		○			2				○	5	
	インテリアⅣ		○			2				○	5	
	ユニバーサルデザインⅠ	○				2		○			5	
ユニバーサルデザインⅡ	○				2		○			5		
クラフトデザインⅠ		○			2				○	5		
クラフトデザインⅡ		○			2				○	5		

専 門 科 目	フィールドワークⅠ		○		2		○		5	
	フィールドワークⅡ		○		2		○		1	
	表現	○			2		○		11	
	造形	○			2		○		5	
	コミュニケーション概論	○			2		○		11	
	メディア文化論	○			2			○	5	
	空間演出論	○			2			○	11	
	創作過程論	○			2			○	5	
	イベント計画	○			2		○		0	
	図形表現	○			2			○	11	
	設計計画	○			2		○		11	
	卒業制作Ⅰ		○		2		○		5	前期
	卒業制作Ⅱ		○				○		5	後期
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○			2			○	0	
	教育学	○			2			○	0	
	教育心理学	○			2			○	0	
	美術科教育法	○			2		○		0	
	道德教育研究	○			1			○	0	
	教育方法論	○			1			○	0	
	生徒指導論	○			2			○	0	
	教育相談	○			2			○	0	
	総合演習		○		2			○	0	前期
	総合演習		○					○	0	後期
	事前・事後指導	○			1			○	0	1年
	事前・事後指導	○						○	0	2年
	教育実習			○	4			○	0	
介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○	1			○	0	1年	
介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○				○	0	2年	

アート・デザイン学科(グラフィックデザインコース)

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
基礎科目	美術理論及び美術史	○				2				○	23	
	コミック文化論	○				2			○		23	
	インターネット	○				2				○	10	
	英会話					2				○	20	
	国語表現	○				2			○	○	12	
	文化人類学	○				2			○		20	
	心理学	○				2				○	20	
	日本国憲法	○				2				○	18	
	体育講義・実技	○	○			1				○	16	
	生活と社会		○			2			○		15	前期
	生活と社会		○						○		15	後期
専門科目	基礎デザインⅠ		○		2					○	23	
	基礎デザインⅡ		○			2				○	23	
	絵画		○		2			○			15	
	工芸		○		2			○			23	
	彫塑		○		2			○			23	
	デッサン		○		2			○			23	
	色彩	○			2					○	23	
	コンピュータグラフィックスⅠ		○		1			○			23	
	コンピュータグラフィックスⅡ		○		1					○	23	
	コンピュータグラフィックスⅢ		○			1				○	15	
	コンピュータグラフィックスⅣ		○			1				○	9	
	コンピュータ理論	○				2				○	14	
	グラフィックⅠ		○			2				○	23	
	グラフィックⅡ		○			2				○	23	
	グラフィックⅢ		○			2				○	16	
	グラフィックⅣ		○			2				○	15	
	ユニバーサルデザインⅠ	○				2			○		14	
	ユニバーサルデザインⅡ	○				2			○		11	
	クラフトデザインⅠ		○			2				○	16	
クラフトデザインⅡ		○			2				○	12		
フィールドワークⅠ		○			2			○		16		

専 門 科 目	フィールドワークⅡ		○			2		○		7	
	表現	○				2		○		23	
	造形	○				2		○		16	
	コミュニケーション概論	○				2		○		21	
	メディア文化論	○				2			○	16	
	空間演出論	○				2			○	23	
	創作過程論	○				2			○	11	
	イベント計画	○				2		○		3	
	図形表現	○				2			○	22	
	設計計画	○				2			○	20	
	卒業制作Ⅰ		○			2		○		15	前期
	卒業制作Ⅱ		○					○		15	後期
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○				2			○	1	
	教育学	○				2			○	1	
	教育心理学	○				2			○	1	
	美術科教育法	○				2		○		1	
	道徳教育研究	○				1			○	1	
	教育方法論	○				1			○	1	
	生徒指導論	○				2			○	1	
	教育相談	○				2			○	1	
	総合演習		○			2			○	1	前期
	総合演習		○						○	1	後期
	事前・事後指導	○				1			○	1	1年
	事前・事後指導	○							○	1	2年
教育実習			○		4			○	1		
介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○		1			○	1	1年	
介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○					○	1	2年	

アート・デザイン学科(ファッションデザインコース)

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
基礎科目	美術理論及び美術史	○				2				○	5	
	コミック文化論	○				2			○		7	
	インターネット	○				2				○	8	
	英会話	○				2				○	5	
	国語表現	○				2				○	10	
	文化人類学	○				2				○	8	
	心理学	○				2				○	9	
	日本国憲法	○				2				○	8	
	体育講義・実技	○	○			1				○	5	
	生活と社会		○			2				○	10	前期
	生活と社会		○							○	10	後期
専門科目	基礎デザインⅠ		○		2					○	10	
	基礎デザインⅡ		○			2				○	10	
	絵画		○		2				○		10	
	工芸		○		2					○	10	
	彫塑		○		2				○		10	
	デッサン		○		2				○		10	
	色彩	○			2					○	10	
	コンピュータグラフィックスⅠ		○		1				○		10	
	コンピュータグラフィックスⅡ		○		1				○		10	
	コンピュータグラフィックスⅢ		○			1				○	10	
	コンピュータグラフィックスⅣ		○			1				○	10	
	コンピュータ理論	○				2					○	2
	ファッションⅠ		○			2					○	10
	ファッションⅡ		○			2					○	10
	ファッションⅢ		○			2					○	10
	ファッションⅣ		○			2					○	10
	ユニバーサルデザインⅠ	○				2				○	10	
	ユニバーサルデザインⅡ	○				2				○	8	
	クラフトデザインⅠ		○			2					○	10
クラフトデザインⅡ		○			2					○	10	
フィールドワークⅠ		○			2				○	10		

専 門 科 目	フィールドワークⅡ		○			2		○		○	10	
	表現	○				2		○			10	
	造形	○				2		○			10	
	コミュニケーション概論	○				2		○			7	
	メディア文化論	○				2				○	10	
	空間演出論	○				2				○	10	
	創作過程論	○				2				○	3	
	イベント計画	○				2		○			0	
	図形表現	○				2				○	8	
	設計計画	○				2				○	10	
	卒業制作Ⅰ			○		2		○			10	前期
	卒業制作Ⅱ			○				○			10	後期
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○				2				○	1	
	教育学	○				2				○	1	
	教育心理学	○				2				○	1	
	美術科教育法	○				2		○			1	
	道徳教育研究	○				1				○	1	
	教育方法論	○				1				○	1	
	生徒指導論	○				2				○	1	
	教育相談	○				2				○	1	
	総合演習			○		2				○	1	前期
	総合演習			○						○	1	後期
	事前・事後指導	○				1				○	1	1年
	事前・事後指導	○								○	1	2年
教育実習				○	4				○	1		
介護等体験実習 (事前事後指導含む)				○	1				○	1	1年	
介護等体験実習 (事前事後指導含む)				○					○	1	2年	

アート・デザイン学科(マンガ・イラスト・絵画コース)

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
基礎科目	美術理論及び美術史	○				2				○	30		
	コミック文化論	○				2			○		38		
	インターネット	○				2				○	35		
	英会話	○				2				○	14		
	国語表現	○				2			○		33		
	文化人類学	○				2			○		38		
	心理学	○				2				○	37		
	日本国憲法	○				2				○	28		
	体育講義・実技	○	○			1				○	20		
	生活と社会		○			2			○		34	前期	
	生活と社会		○						○		34	後期	
専門科目	基礎デザインⅠ		○		2				○		38		
	基礎デザインⅡ		○			2			○		38		
	絵画		○		2				○		35		
	工芸		○		2				○		38		
	彫塑		○		2				○		38		
	デッサン		○		2					○	38		
	色彩	○			2					○	38		
	コンピュータグラフィックスⅠ		○		1				○		38(4)		
	コンピュータグラフィックスⅡ		○		1				○		38(2)		
	コンピュータグラフィックスⅢ		○			1			○		32(2)		
	コンピュータグラフィックスⅣ		○			1			○		30		
	コンピュータ理論	○				2					○	28	
	ビジュアルⅠ		○			2				○	38		
	ビジュアルⅡa		○			2				○	28		
	ビジュアルⅡb									○	10		
	ビジュアルⅢa		○			2				○	26		
	ビジュアルⅢb		○			2				○	9		
ビジュアルⅣa		○			2				○	27			
ビジュアルⅣb		○			2				○	7			
ユニバーサルデザインⅠ	○				2				○	33			
ユニバーサルデザインⅡ	○				2				○	30			

専 門 科	クラフトデザインⅠ		○			2			○	26	
	クラフトデザインⅡ		○			2			○	30	
	フィールドワークⅠ		○			2		○		34	
	フィールドワークⅡ		○			2		○		31	
	表現	○				2		○		30	
	造形	○				2		○		34	
	コミュニケーション概論	○				2		○		26	
	メディア文化論	○				2			○	30	
	空間演出論	○				2			○	38	
	創作過程論	○				2			○	15	
	イベント計画	○				2		○		15	
	図形表現	○				2			○	36	
	設計計画	○				2			○	37	
	目	卒業制作Ⅰa		○			2		○		17
卒業制作Ⅰb			○					○		17	前期
卒業制作Ⅱa			○					○		17	後期
卒業制作Ⅱb			○					○		17	後期
教 職 に 関 す る 科 目	教師論	○				2			○	3	
	教育学	○				2			○	3	
	教育心理学	○				2			○	3	
	美術科教育法	○				2		○		3	
	道徳教育研究	○				1			○	3	
	教育方法論	○				1			○	3	
	生徒指導論	○				2			○	3	
	教育相談	○				2			○	3	
	総合演習		○			2			○	4	前期
	総合演習		○						○	3	後期
	事前・事後指導	○				1			○	3	1年
	事前・事後指導	○							○	3	2年
	教育実習			○		4			○	3	
	介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○		1			○	3	1年
介護等体験実習 (事前事後指導含む)			○					○	3	2年	

看護学科

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
看護	人間発達学		○		1				○		88	
	人間関係論		○		1				○		88	
	家族論		○		1				○		86	
	教育学		○		1					○	86	
	情報科学		○		2					○	88(2)	前期
	情報科学		○							○	87(2)	後期
	環境と人間	○			1				○		88	
	行動科学		○		1					○	88	
	衛生統計学		○		1				○		86	
	看護英語		○		1				○		88(2)	
	英語	○				1			○		88(2)	
	人間工学	○				1				○	85	
基	カウンセリング理論	○				1			○		85	
	性保健学	○				1			○		88(2)	
	生命科学	○				1			○		87	
	臨床心理学		○		1				○		88	
	国際看護論	○			1			○			92	
	生化学(栄養学含む)		○		1				○		90	
	人体の構造・機能Ⅰ		○		2			○			90	
	人体の構造・機能Ⅱ		○		2			○			90	
	人体の構造・機能Ⅲ		○		2			○			90	
	疾病の成り立ちⅠ		○		1			○			90	
科	※疾病の成り立ちⅡ		○		1					○	87	
	※疾病の回復促進Ⅰ	○	○		3			○			89	
	※疾病の回復促進Ⅰ	○	○					○		○	88	
	※疾病の回復促進Ⅱ	○	○		3					○	90	
	※疾病の回復促進Ⅱ	○	○							○	89	
	※疾病の回復促進Ⅲ	○			2					○	91	
	医療関係法規	○			2				○		86	
	社会保障	○			2				○		88	
	医療概論	○			2					○	87	
	特別講義Ⅰ	○			1			○			85	
目												

	※特別講義Ⅱ	○				1			○		88		
	※特別講義Ⅱ	○						○			88		
看	看護学概論Ⅰ		○		2			○			88		
	看護学概論Ⅱ		○		1			○			86		
	看護過程論		○		2			○			88		
	基礎看護技術Ⅰ		○		2			○			88(2)		
	基礎看護技術Ⅱ		○		3			○			88(2)		
	基礎看護学実習Ⅰ			○	1			○			87		
	基礎看護学実習Ⅱ			○	2			○			88		
	在宅看護論		○		2			○			89		
	在宅看護方法		○		2			○			86		
	在宅看護実習			○	2			○			44	前期	
	在宅看護実習			○				○			31	後期	
	専	成人看護学概論	○			1			○			88	
成人看護方法Ⅰ			○		1			○			87		
成人看護方法Ⅱ			○		2			○			89		
成人看護方法Ⅲ			○		1			○			90		
成人看護方法Ⅳ			○		1			○			86		
成人看護学実習Ⅰ				○	4			○			44	前期	
成人看護学実習Ⅰ				○				○			32	後期	
成人看護学実習Ⅱ				○	4			○			47	前期	
成人看護学実習Ⅱ				○				○			26	後期	
門		老年看護学概論	○			1			○			87	
		老年看護方法Ⅰ		○		2			○			89	
		老年看護方法Ⅱ		○		1			○			86	
		老年看護学実習			○	4			○			47	前期
		老年看護学実習			○				○			25	後期
		科	小児看護学概論	○			1			○			87
小児看護方法Ⅰa				○		2			○			86	
小児看護方法Ⅰb				○						○		86	
小児看護方法Ⅱ				○		1			○			86	
小児看護学実習				○	2			○			33	前期	
小児看護学実習				○				○			47	後期	
母性看護学概論	○				1			○			87		
母性看護方法Ⅰ			○		2			○			90		
母性看護方法Ⅰ			○					○			89		
母性看護方法Ⅱ			○		1			○			86		
目													

看	母性看護学実習			○	2			○			42	前期	
	母性看護学実習			○				○			33	後期	
護	精神看護学概論	○			1			○			87		
	精神看護方法Ⅰ		○		2			○			88	前期	
	精神看護方法Ⅰ		○						○			86	後期
	精神看護方法Ⅱ		○		1			○			86		
	精神看護学実習			○	2			○			48	前期	
	精神看護学実習			○					○			30	後期
	課題別看護Ⅰ (クリティカル看護Ⅰ)	○				3			○			7	
	課題別看護Ⅰ (クリティカル看護Ⅱ)	○				3			○			7	
課題別看護Ⅰ (クリティカル看護Ⅲ)	○				3			○			7		
課題別看護Ⅱ (感染症看護Ⅰ)	○				3			○			6		
門	課題別看護Ⅱ (感染症看護Ⅱ)	○				3			○		6		
	課題別看護Ⅲ (がん看護Ⅰ)	○				3			○		7		
	課題別看護Ⅲ (がん看護Ⅱ)	○				3			○		6		
	課題別看護Ⅲ (がん看護Ⅲ)	○				3			○		6		
	課題別看護Ⅳ (家族看護Ⅰ)	○				3			○		7		
	課題別看護Ⅳ (家族看護Ⅱ)	○				3			○		7		
	課題別看護Ⅳ (家族看護Ⅲ)	○				3			○		7		
	課題別看護Ⅴ (ターミナル看護論Ⅰ)	○				3			○		7		
科	課題別看護Ⅴ (ターミナル看護論Ⅱ)	○				3			○		6		

専攻科助産学専攻

(平成20年5月1日)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
基礎科目	助産学概論		○		1			○			17	
	助産学概論		○							○	17	
	性・生殖の形態・機能 ・病態Ⅰ・Ⅱ	○			1					○	17	
	性・生殖の形態・機能 ・病態Ⅱ・Ⅲ	○			1					○	17	
	性・生殖の形態・機能 ・病態Ⅳ	○			1					○	17	
	母子の健康科学Ⅰ		○		1				○		17	
	母子の健康科学Ⅰ		○							○	17	
	母子の健康科学Ⅱ		○		1					○	17	
	母子の健康科学Ⅱ		○							○	17	
	母性・父性の心理社会学		○		1					○	17	
母性・父性の心理社会学		○							○	17		
実践領域	助産診断・技術学Ⅰ	○			1			○			17	
	助産診断・技術学Ⅱ		○		2			○			17	
	助産診断・技術学Ⅱ		○					○			17	
	助産診断・技術学Ⅲ		○		3			○			17	
	助産診断・技術学Ⅳ		○		2			○			17	
	地域母子保健	○			1			○			17	
	助産管理	○			1			○			17	
	助産診断学・助産技術学実習			○	9			○			17	
	地域母子保健実習			○	1			○			17	
	助産業務管理実習			○	1			○			17	
総合領域	助産学研究		○		1			○			17	前期
	助産学研究		○					○			17	後期
	助産学英語表現法	○				1		○			17	
	情報管理	○				1				○	17	
	助産学特論	○				1		○			17	前期
	助産学特論	○						○			17	後期

[注意]

1. 実習には実験、実技を含みます。
2. 履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。

(2) 教育の段組、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等についての特記事項

各学科とも、主要な科目の主要な科目の多くを専任教員が担当しているが、基礎科目と専門科目の一部を兼任教員が担当している。

また、実技系の科目については、専門技術を要するため教育効果を考慮し、兼任教員を配置している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格。また、教育課程に関係なく取得できる免許・資格等と履修方法。

① 教育課程を履修することにより取得可能な免許・資格

学科 コース	取得可能な免許・資格等
生活科学科 健康栄養コース	栄養士(栄養士養成課程) 中学校教諭2種免許状(家庭) 栄養教諭2種免許 訪問介護員養成研修(2級課程) 医事管理士・医療事務士・医療事務士・医療秘書士 ピアヘルパー フードスペシャリスト 環境マネージャー
生活科学科 ビジネスコミュニケーションコース	中学校教諭2種免許状(家庭) 訪問介護員養成研修(2級課程) 医事管理士・医療事務士・医療事務士・医療秘書士 介護保険事務管理士 環境マネージャー
アート・デザイン学科 全コース	中学校教諭2種免許状(美術) 環境マネージャー
看護学科	看護師国家試験受験資格
専攻科助産学専攻	助産師国家試験受験資格 幼児安全法支援員 受胎調節実地指導員

② 教育課程に関係ない免許・資格名及び履修方法

コンピュータ関連、デザイン関連の資格は、授業担当者により協会の委託のもとで検定試験が行われている。

資格・検定は授業において支援を行っているが、資格取得希望者は学校を通じて手続きをして受験している。

学科 コース	資格名
生活科学科 健康栄養コース ビジネスコミュニケーションコース	Word文書処理技能認定 Excel表計算処理技能認定 日本語コミュニケーション能力認定 日本語文書処理技能検定

アート・デザイン学科 全コース	カラーコーディネーター検定 商品装飾展示技能士 商業施設士補
--------------------	--------------------------------------

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等。

① 選択科目の指導

入学後に新入生全員に、学生便覧等を参考にして大学の授業概要、卒業要件など学習面及び生活全般にわたる共通事項についてオリエンテーションを行っている。その後、クラス毎に履修方法等についてのガイダンスを行っている。

② 時間割上の工夫

教務委員会において、学科長と教務課担当者を中心に調整が行われている。教育効果を考慮し、講義と実習・実験科目との配置において、偏らないようにしている。選択科目については、重複することはないので、希望する学生はすべての選択科目を履修可能である。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必要単位の修得、学生納付金の納付等)。また、学生に卒業要件を周知させる方法。

① 卒業要件

卒業は、学則第24条に「前第23条に定めるところの単位を修得した者には、学長は教授会の議を経て卒業を認定し、短期大学の学位を授与する。」と規定されている。

卒業要件の単位数は学則第23条で規定されている。

生活科学科、アート・デザイン学科では、2年以上在学し、次に定める単位を修得するものとする。

基礎科目は12単位以上、専門科目は必修科目、選択科目合わせて50単位以上、かつ、総計で62単位以上。

看護学科では、3年以上在学し、次の各項に定める単位を修得するものとする。

看護基礎科目は必修科目36単位、選択科目3単位以上、計39単位以上。看護専門科目は、必修科目59単位、選択科目3単位以上、計62単位以上。

専攻科助産学専攻の修了要件は、学則第53条の5及び別表(4)に定められており、必修科目30単位、選択科目3単位である。

学生納付金の内、授業料、施設費、校費、実験実習費、図書費は、学則第44条、専攻科は第53条の6で規定されているが、卒業要件として学納金に関する規定はない。

以上の卒業要件に関しては、学則、履修要項を含め詳細に記載し学生への周知を図っている。

② 学生への周知方法

入学直後のオリエンテーションや前・後期開始時に卒業要件を提示し周知徹底を図っている。履修が個人によって異なるので、学生便覧のほかに履修の手引き(履修科目一覧表含む)を作成し学生の履修管理を行っている。履修の管理は、学生個々が自主管理するよう指導しているが、学期末に配布される成績表は担任から学生に直接手渡し、単位修得状況の確認と卒業要件の再確認を行っている。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状

学園として大学設置を計画しており、大学設置計画の中で、短期大学の構成・教育課程の見直しを検討している。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成する際に配慮していること等

学年当初に配布する講義要項でカリキュラムの全体像を把握し、各授業開始時に配布されるシラバスで各教科の具体的内容を把握するという目的で作成している。

講義要項は前期当初のクラスオリエンテーション開催時にクラス担任から配付し、履修登録の際の説明資料として利用としている。シラバスは、教科担当が初回授業時に配付し授業計画を説明する際を使用している。

シラバスの内容については、教務委員会及び学科ごとで検討することとなっているが、事後の検討となっているので、各教科担当の改善努力に委ねられているのが現状である。

◇シラバスのフォーマット

平成19年度 シラバス

科目名	担当者		学科	学科	開講期
区分	単位 (時間)	単位 (時間)	学年 クラス	学年	曜日 時限
授業の概要					
成績評価					
講義計画					
回	主題	内 容			
第1回					
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
教科書					
参考書					
履修のポイント					
備 考					

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価の概要

学生による授業評価は、平成12年度に初めて実施した。以後、学期末に毎年度実施している。

評価は、全開講科目(学外実習除く)を対象に、各期の授業の最終回にマークシートを配布して、実施している。評価項目は、「授業内容と方法について」10項目、「教師について」11項目、「あなた自身(学生)について」6項目で適当から不適当の5段階評価と該当なしとした。

集計結果は、各科目についての評価項目ごとにグラフ化された表と、マークシート用紙現物を各教科担当に渡している。表と自由記述のコメントを各教員が授業改善に役立てるよう、教授会・全体会議で奨励している。

(2) 短期大学全体の授業改善(ファカルティ・デベロップメント(FD)活動等)への組織的な取組み状況。

FD活動について、取り組む組織の設置を検討している。

現在は、各学科において授業内容の改善などを行っているが、今後は全学的に恒常的にまた組織的に取り組んでいく必要がある。

(3) 担当授業について教員間の意思疎通や協力体制、または兼任教員との意思疎通についての現状。

①生活科学科

日常の専任教員間の授業についての意思疎通は、関連科目間では比較的頻繁に行われている。しかしながら、関連科目以外の場合は意思疎通が希である。授業内容の互いの確認については、基本的にシラバスで行われる。また、学科内会議で、学生の成績等のことでコミュニケーションがとられ、その際に授業について協議されることもある。

なお、カリキュラム検討会等では学科全体のあり方、授業内容等について各教員間で綿密な意思疎通がなされている。

兼任教員との意思疎通は教務課と連動した形で行われる。学期の開始以前に個々の兼任教員との間で授業内容の確認がされる。今後は、兼任教員を含めた全体会議を行い、意思疎通をはかることが望ましいと考えるが、日程調整等の課題も残っている。

②アート・デザイン学科

毎週開催されるアート・デザイン学科定例会議での、各コースの運営やカリキュラム内容についての検討は、専任教員間の意思疎通を計り、充実するものであった。年度末においては、専任教員のみではなく、各コースごとに兼任教員とも協議を重ね、カリキュラムの内容向上を目指したが、今後は、教員間で年度方針などの共有とカリキュラム等に対する意見交換のために学科全体会議が望まれ、検討が必要と考える。

③看護学科

看護学の各領域ごとに定期的および臨時に会議をもち、授業案や指導内容について検討を行っている。

特に、技術演習前には単元ごとに必ず打ち合わせを実施している。看護学担当教員と基礎科目、専門基礎科目の担当教員間では、シラバスを活用すると共に、必要時には直接連絡を取り合い、授業内容の確認、調整を行っている。また、1か月に1回、カリキュラム委員会、教員会(定例会議)を行っているが、この他に、期末には、臨地実習を中心に学生の履修状況について情報交換と、指導方針の検討・確認を行っている。臨地実習については教員と病院・施設の実習指導者と日常的に連携を深めつつ、実習の開始・終了時に打ち合わせと反省会を実施し、次年度につなげている。

④専攻科

専攻科教員は少数であり、担当授業数が多いので、年度当初の担当科目間の内容調整を綿密に行う他、学生の反応も考慮して会議の都度確認しながら調整している。

非常勤講師との話合いも授業前後に行い、内容調整を図っている。

【特記事項について】

(1)教育の内容について、学科等で努力していること。

①科目等履修生

学則第52条に規定されているとおり、当該授業の授業に支障のない限り、選考のうえ科目等履修生として受け入れている。

②海外研修

学生の国際感覚を養うとともにコミュニケーション能力を磨くために、海外研修を実施している。

- ・生活科学科/アート・デザイン学科 <イタリア/ローマ>9月
- ・看護学科 <オーストラリア/シドニー>8月

《Ⅲ 教育の実施体制》の記述及び資料等について

【教員組織について】

(1)現在の専任教員等の人数

専任教員等の人数

(平成19年5月1日現在)

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数					設置基準 で定める 教員数		助手	[ハ]	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	[イ]	[ロ]			
生活科学科	5	4	8	0	17	5		1	5	
アート・デザイン学科	5	1	2	0	8	7			2	
看護学科	3	2	9	1	15	7		3	0	
[小計]	13	7	19	1	40					
専攻科 助産学専攻	2	1	1	1	5			1		
[ロ]							4			
合計	15	15	20	3	45	19		2	7	

【注意】

1. 上表の[イ]とは短期大学設置基準（以下「設置基準」という。）第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2. 上表の[ロ]とは設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
4. 上表の[ハ]とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(例えば副手、補助職員、技術職員等)。

(2) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況

「教員資格審査委員会規程」「非常勤教員採用規程」により、教員の昇格・採用が行われている。また、新任教員の採用にあたっては、次年度の授業担当状況等を考慮し、年複数回の採用を行っている。その手順は原則として、該当学科長より候補者があげられ、提出書類（履歴書、研究業績書等）を検討した上、面接を行う。面接は、任命権者、所属長、部長等の複数名により行われる。内定は前述の面接者の協議により決定され、任命権者名で郵送される。候補者より関係書類（就任承諾書等）の提出がなされて採用となる。正式な採用は該当年度の4月1日付の辞令をもって行われる。

(3) 教員の年齢構成の現状

専任教員等の年齢構成表(短期大学全体で作成)

(年齢は平成19年5月1日現在)

区 分	年齢ごと専任教員数(助教以上)							助手等の 平均年齢	備 考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数 (人)	5	3	15	16	6	0	51.9	32.7	
割合	11.1%	6.7%	33.3%	35.6%	13.3%	0.0%			

[注意]

1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

(4) 専任教員の(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対する取組状況とその傾向

① 授業に対する取組み

専任教員の授業に対する意識は高く、意欲的に取り組んでいる。特に若手教員（准教授、講師）は年間の授業時間数も多いが精力的にこなしている。授業時間数の多い理由は各学科によって異なるが、生活科学科では、40名クラスで授業を行うため、同一内容の講義を2回行うことによる。アート・デザイン学科においても少人数授業を行っていることから、授業時間数が増加し、また、コンピュータグラフィックスなどでは使用可能なPCの数、個別指導の限界数に規制されてしまい授業数が増加することもある。このことについては設備等の補充でまかなえる場合には、そうした措置を行うことにより教員の過度な授業時間数の減も検討したい。看護学科では、臨地実習の時間数が多いため1教員当たりの授業時間数が増加する傾向にある。看護師養成において、臨地実習は教育課程の総仕上げであるとともに、学生の国家試験受験にとっても大変重要な要因となっているため、やむを得ない面がある。

② 研究に対する取組み

研究に取り組む意欲は十分あるが、日常の学生指導やその他の業務に追われ、十分な時間が研究に充てることができないのが実情である。しかしながら、学生の長期休暇期間を利用してそれぞれの研究に励んでいる。

③ 学生指導に対する取組み

本学ではクラス担任制をとっており、担任は副担任と協力して学生の生活面、履修指導、資格指導、就職・進学など学生生活全般の指導にあたっている。さらに学科長がおり、学生の身の回りに生じる諸問題に対して担任とともに解決にあたっている。

また、学科会議で学生の状況や指導について話し合う機会を設けて、共通理解を図るなど学生支援の意識はきわめて高い。

進路指導については、就職担当によって就職活動への取組み方、試験対策、マナー講座などを企画し指導しているが、個々への対応は、担任と就職担当が連携して就職内定まで支援している。

短期大学全体としては、学生課が中心となって健康管理指導、防犯指導、奨学金の相談、サークル活動、学園祭等の学生支援活動に対し全学的にサポートしている。

④その他教育上の業務に対する取組み

本学では、各種資格取得を支援しており、授業外にも対策講座、国家試験対策補習を開くなど、多くの教員が多種の資格の受験指導にあたっている。

(5) 助手、副手、補助職員、技術職員等配置状況。また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているか。

設置規準や関係法規に合致した助手の数が配置されており、実際の運営上も過不足はない。

また、本学の助手・副手は授業実習の補助のみでなく、教務事務を含めたクラス担任補助、さらには学生指導に至るまで多くの業務をこなしている。研究活動は教員と同様学生の休暇時が中心であるが、教員とそれほど異なる研究環境ではない。

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表

校舎・校地一覧表

(平成19年5月1日現在)

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
桐生短期大学	575人	5,200㎡	11,050㎡	5,850㎡	5,750㎡	32,10㎡	26,353㎡
計	575人	5,200㎡	11,050㎡	5,850㎡	5,750㎡	32,10㎡	26,353㎡

※講堂、体育館、車庫、倉庫（6,8号館）の面積を含まず。

校地の基準編積等

校地基準面積 設置基準第30条 基準面積（収容定員×10㎡）
 $575 \times 10 \text{ m}^2 = 5,750 \text{ m}^2$

校舎の基準編積

校舎基準面積 設置基準第31条 基準面積
 = 別表第二のイ：収容定員の百人までの欄の最大面積 + 別表第二のロ
 （保健衛生学関係）+（家政関係+美術関係）
 $2,000 \text{ m}^2 + 1,550 \text{ m}^2 + 1,650 \text{ m}^2 = 5,200 \text{ m}^2$

(2) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数を含む)及び使用状況

①情報機器を設置する教室等の整備状況

教育研究及び学生の自習のために使用する情報機器等を配備した教室として、語学演習室、情報機器演習室、0A室、コンピュータ室がある。学科特性によりパソコンのOSも異なり、パソコンの他にプリンタ、各種ソフトを備えている。

学内LANについては、1Gbpsで構築し、速度面、セキュリティ面も強化している。

②情報機器等整備状況

教室名	機種・台数
1号館 コンピュータ室1F	OS Macintosh 15台
1号館 コンピュータ室3F	OS Macintosh 31台
9号館 情報機器演習室	OS WindowsXP 41台
9号館 語学演習室	OS WindowsXP 46台
10号館 0A室	OS WindowsXP 50台

③情報機器を設置する教室等の使用状況

各情報機器については、主に授業、学生の自主学習のための利用に供されている。

英語の授業は全て語学演習室(LL教室)を使用している。

授業日の稼働率は高く、常時開放しているため利用人数、利用目的、利用時間などの実態把握は難しい。

(3) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)の概要

- ・パソコン/プロジェクタ常設教室
4号館・・・401、402、403、404
9号館・・・901、902、904、905
- ・プロジェクタ常設教室
1号館・・・103、104
- ・パソコン/プロジェクタ移動利用 ※貸出方式
10号館・・・10-1、10-2・3、10-4・5、10-6・7

(4) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等

①校地、校舎の安全性について

危機管理マニュアルに基づく

- a. 桐生短期大学防災マニュアル
- b. 臨地実習中に大地震が発生または警戒警報が出た場合の対応
- c. 校外実習期間中の危機管理
- d. 桐生短期大学応急処理マニュアル
- e. 桐生短期大学不審者対応マニュアル

②障害者への対応について

1号館、9号館、10号館にはスロープが整備されている。

2号館学生コミュニティーホールにおいて、車椅子に対応できるようにエレベータを平成13年度に設置した。また、9号館1階には身障者用トイレを整備している。

③運動場、体育館、学生の休憩場所等

運動場は、テニスコート4面、屋外運動場等が整備されている。

体育館は1,060㎡あり、授業以外は常時学生に解放している。(但し、学生部への届け出が必要)

学生の休息所は、2号館学生コミュニティーホール(2階建1225㎡:エレベータ面積除く)をはじめ、9号館第2試食室、看護学科棟ロビー等を整備している。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要(全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含む)

① 配置図

② 座席数 100席

今年度は1日あたり平均40人の学生が利用した。この数値から座席数に問題ないと判断できる。

③ 図書購入予算

学生数×5,000円を図書購入予算枠としている。

今年度の学生数は598名であることから、 $598 \times 5,000 = 2,990,000$ 円が予算となる。

今年度は、2,957,154円を使用した。

④ 図書選定システム

桐生短期大学図書館図書管理細則に基づき、一般図書、参考図書、専門図書及び視聴覚資料を選定し購入している。図書館が収集する図書の選定は、購入希望のあった下記に記すものについて、予算の有無等を考慮し、館長が行う。

1. 教職員が希望するもの
2. 学生が希望するもの
3. 図書館職員が希望するもの

年2回の締切日を設け購入計画を行い、一括で購入する。その他、教員が個人の研究費で購入する図書については、研究図書として登録し、各研究室にて管理している。

⑤ 図書廃棄システム

桐生短期大学図書館図書管理細則に基づき、下記の項目に該当する資料について、除籍、廃棄を行う。

1. 紛失確認後4年を経過したもの。
2. 破損、汚損、消耗等の度が甚だしく、補修不能と認められるもの。
3. 図書として利用価値を失ったと認められるもの。
4. その他、館長が除籍を適当と認めたもの。

また、一般大衆誌（流行ファッション誌等）については、バックナンバーを過去1年間保管し、それ以前については自動的に除籍を行う。除籍を行った資料に関しては、リサイクルコーナーに配置し、1ヶ月経過してもリサイクルコーナーに残ったものを廃棄する。

⑥ 司書数

図書館の司書数は2人である。

⑦ 情報化の進捗状況

蔵書は、図書館に設置された蔵書検索専用端末1台から検索できるようになっている。

また、9月よりメディカルオンラインを契約したことにより電子ジャーナルに接続可能となっている。

(2) 図書館に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等)

① 図書館蔵書数一覧 (平成19年5月1日現在)

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料
冊(種)	32,864 冊 (15,669 冊)	3,245 冊 (2,030冊)	75 冊	865 点

※() 内は蔵書管理システム登録冊数

② 図書館の蔵書数、学術雑誌数、視聴覚資料数の在籍学生数に対する比率

a. 蔵書数 36,109冊 (今年度受入 884冊)

今年度の学生数は598名であることから、蔵書数の比率は学生1人あたり約60.4冊である。また、学生1人あたり約1.5冊の資料を受け入れたことになる。

b. 学術雑誌数 75タイトル

生活科学科関連:17, アート・デザイン学科関連:0

看護学科関連:49, 助産学専攻科関連:9

*昨年度と同様

c. 視聴覚資料数 865 (VHS:837、DVD:28)

視聴覚資料数の比率は学生1人あたり約1.4本であり、今年度は10点の視聴覚資料を新規に受け入れた。

(3) 学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等の整備状況。および学生の図書館等の利用の現状。

① 各学科に関連した図書、参考図書および一般図書

本学の主たる教育分野の栄養学、芸術、看護学に関しては、蔵書数の半数近くを占めており(蔵書管理システムデータにおける)、問題なく整備されていると判断できる。

② 図書館の利用状況

a. 基本データ

(平成20年3月31日)

項目	平成19年度	平成18年度
来館者数(人)	9,422	7,797
学生貸出利用回数(回)	1,891	1,631
学生貸出利用冊数(冊)	4,238	4,528
教職員貸出利用回数(回)	189	156
教職員貸出利用冊数(冊)	484	369
学外者文献複写利用状況(件)	0	1
学外者文献資料閲覧利用状況(件)	4	18

上記表の通り、今年度は図書館の利用が大幅に増加し、貸出利用の回数も増加傾向にあるが、学生1人あたりの貸出利用冊数がやや減少した。これは、メディカルオンラインを導入したことにより、電子ジャーナルを多用するようになった影響ではないかと考えられる。

b. メディカルオンライン利用状況

期 間	文献参照数(回)

	平成19年度
9月 1日 ～ 10月20日	110
10月20日 ～ 11月20日	187
11月20日 ～ 12月20日	91
12月20日 ～ 1月20日	59
1月20日 ～ 2月20日	101
2月20日 ～ 3月20日	23
3月20日 ～ 3月31日	6
合 計	577

上記表の通り、メディカルオンラインの利用状況を示す。文献の参照数がまだ少ないため、沢山の利用者に利用してもらえよう周知する必要があると考える。

③ 司書のスキルアップ

下記研修会等への参加

- ・6月15日(金), 6月29日(金) 図書館司書実務研修(群馬県)
- ・9月13日(木), 9月14日(金) 私立短期大学図書館情報担当者研修会

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について

① 情報発信

学内へは、図書館だよりやスケジュール等を学内掲示板に掲示し、学外へは、スケジュールや学外者への利用案内を短大ウェブサイトに掲載している。

② 他の図書館との連携

本学は、群馬県大学図書館協議会に加盟しており、県内の大学図書館との協力体制が整っている。また、その協議会は団体会員として群馬県図書館協会に加盟しており、県内の公共、高等学校、小中学校、専門学校図書館との協力体制も整っている。

③ 相互利用

(平成20年3月31日現在)

項 目	平成19年度	平成18年度
現物貸借[借受] (件)	8	1
文献複写[取寄] (件)	70	171
文献複写[提供] (件)	1	5

今年度は文献複写[取寄]の利用が大幅に減少した。これは、メディカルオンラインを導入したことにより、電子ジャーナルを多用するようになった影響ではないかと考える。

【特記事項について】

教育の実施体制において、特に努力していること(例: 外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等)

生活科学科専門科目「ビジネス英語」に外国人准教授(専任)を採用し、国際社会で通用するビジネス専門英語を学ばせている。

《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》の記述及び資料等について

【単位認定について】

(1) 「単位認定の状況表」(単位認定の方法と評価の実態)

※平成19年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成。

生活科学科(健康栄養コース/ビジネスコミュニケーションコース)

(平成19年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	歴史と文化	講義	80	筆記	86%	6%	93%	5%	31%	46%	10%	8%
基礎	くらしと色彩	講義	61	筆記	85%	5%	90%	0%	2%	59%	30%	10%
基礎	人間と心理	講義	69	筆記	93%	4%	97%	17%	55%	17%	7%	3%
基礎	くらしと憲法	講義	36	筆記	97%	0%	97%	6%	51%	40%	0%	3%
基礎	現代社会と経済	講義	70	筆記	97%	0%	97%	24%	54%	14%	4%	3%
基礎	くらしと統計	講義	10	筆記	90%	0%	90%	10%	30%	40%	10%	10%
基礎	くらしと現代科学	講義	45	筆記	84%	9%	93%	13%	20%	42%	18%	7%
基礎	情報社会とくらし	講義	76	課題	96%	1%	97%	8%	86%	1%	2%	3%
基礎	生活と社会 (校外活動・海外研修等含)	演習	73	課題	100%	0%	100%	0%	88%	12%	0%	0%
基礎	ことばと文化	講義	37	筆記	68%	5%	73%	0%	0%	46%	27%	27%
専門	生活科学概論	講義	91	筆記	97%	3%	100%	8%	45%	40%	8%	0%
専門	生活環境論	講義	91	筆記	96%	3%	99%	15%	51%	27%	5%	1%
専門	基礎ゼミ①	演習	7	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
専門	基礎ゼミ②	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	0%	83%	17%	0%
専門	基礎ゼミ③	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	基礎ゼミ④	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	20%	60%	20%	0%
専門	基礎ゼミ⑤	演習	8	課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	0%
専門	基礎ゼミ⑥	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	0%
専門	基礎ゼミ⑦	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	基礎ゼミ⑧	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	基礎ゼミ⑨	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	基礎ゼミ⑩	演習	8	課題	100%	0%	100%	0%	88%	13%	0%	0%
専門	専門ゼミ①	演習	11	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ②	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
専門	専門ゼミ③	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ④	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	20%	40%	40%	0%
専門	専門ゼミ⑤	演習	8	課題	100%	0%	100%	13%	63%	25%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑥	演習	6	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%

専門	専門ゼミ⑦	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑧	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑨	演習	6	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑩	演習	8	課題	100%	0%	100%	38%	25%	38%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑪	演習	2	課題	100%	0%	100%	50%	50%	0%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑫	演習	2	課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	0%
専門	専門ゼミ⑬	演習	3	課題	100%	0%	100%	33%	33%	33%	0%	0%
専門	医療経営学	講義	55	筆記	100%	0%	100%	64%	29%	4%	4%	0%
教職	※教師論	講義	12	課題	100%	0%	100%	42%	58%	0%	0%	0%
教職	教育学	講義	1	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
教職	教育心理学	講義	12	筆記	100%	0%	100%	33%	50%	17%	0%	0%
教職	※家庭科教育法	講義	1	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
教職	※道徳教育研究	講義	1	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
教職	生徒指導論	講義	1	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
教職	教育相談	講義	3	課題	100%	0%	100%	0%	33%	67%	0%	0%
教職	※総合演習	演習	3	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
教職	総合演習	演習	3	課題	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%
資格	医療保険実務	演習	25	筆記	100%	0%	100%	52%	40%	8%	0%	0%

生活科学科(健康栄養コース)

(平成19年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	くらしと英会話	講義	41	筆記	100%	0%	100%	0%	20%	66%	15%	0%
基礎	健康とスポーツ	講義・実技	15	筆記	93%	0%	93%	80%	13%	0%	0%	7%
専門	基礎栄養学Ⅰ	講義	85	筆記	89%	5%	94%	20%	32%	26%	16%	6%
専門	社会福祉論	講義	85	筆記	99%	0%	99%	1%	75%	19%	4%	1%
専門	現代ビジネス論	講義	67	筆記	93%	7%	100%	0%	37%	39%	24%	0%
専門	解剖学	講義	86	筆記	99%	0%	99%	42%	29%	26%	2%	1%
専門	生理学	講義	62	筆記	68%	32%	100%	3%	6%	19%	71%	0%
専門	生化学	講義	85	筆記	91%	8%	99%	41%	32%	12%	14%	1%
専門	生理学	講義	85	筆記	62%	36%	99%	0%	7%	36%	55%	1%
専門	生理生化学実験	実験	62	筆記	89%	11%	100%	6%	34%	35%	24%	0%
専門	生活活動論	講義	62	課題	100%	0%	100%	5%	65%	27%	3%	0%
専門	環境生理学	講義	62	筆記	100%	0%	100%	6%	34%	40%	19%	0%
専門	食品衛生学	講義	85	筆記	95%	2%	98%	4%	29%	57%	8%	2%
専門	食品衛生学実験	実験	62	課題	100%	0%	100%	2%	82%	16%	0%	0%
専門	食品学	講義	85	筆記	83%	11%	94%	0%	20%	48%	26%	6%
専門	食品学実験Ⅰ	実験	62	筆記	92%	8%	100%	13%	35%	37%	15%	0%
専門	食品学実験Ⅱ	実験	85	筆記	94%	5%	99%	5%	18%	60%	16%	1%
専門	食品加工学	講義	62	筆記	90%	10%	100%	0%	13%	55%	32%	0%
専門	基礎栄養学Ⅱ	講義	85	筆記	86%	8%	94%	2%	24%	42%	26%	6%
専門	応用栄養学	講義	62	筆記	98%	2%	100%	24%	56%	18%	2%	0%
専門	栄養学実験	実験	62	課題	100%	0%	100%	0%	5%	95%	0%	0%
専門	臨床栄養学概論	講義	84	筆記	87%	13%	100%	6%	18%	56%	20%	0%
専門	臨床栄養学実験	実験	62	筆記	92%	8%	100%	8%	48%	31%	13%	0%
専門	栄養指導論Ⅰ	講義	85	筆記	86%	11%	97%	4%	14%	60%	19%	1%
専門	栄養指導論Ⅱ	講義	85	筆記	92%	7%	99%	0%	34%	52%	13%	1%
専門	公衆栄養学概論	講義	62	筆記	98%	2%	100%	3%	58%	39%	0%	0%
専門	栄養情報処理演習	実習	62	課題	100%	0%	100%	5%	34%	61%	0%	0%
専門	調理学	講義	85	筆記	85%	13%	98%	2%	29%	52%	14%	0%
専門	調理実習Ⅰ	実習	86	筆記	89%	10%	99%	1%	36%	45%	16%	1%
専門	調理実習Ⅰ	実習	85	筆記	94%	5%	99%	9%	52%	26%	12%	1%
専門	給食計画・実務論	講義	85	筆記	87%	12%	99%	1%	40%	27%	31%	1%
専門	調理実習Ⅱ	実習	62	筆記	89%	11%	100%	3%	24%	47%	26%	0%
専門	学内実習	実習	85	課題	100%	0%	100%	7%	55%	36%	1%	0%

専門	調理実習Ⅱ	実習	62	筆記	73%	27%	100%	3%	15%	42%	40%	0%
専門	校外実習	実習	62	課題	100%	0%	100%	10%	42%	44%	5%	0%
専門	栄養教諭論	講義	12	課題	100%	0%	100%	25%	75%	0%	0%	0%
専門	食育論	講義	11	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
専門	臨床栄養学各論	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	臨床栄養学各論実験	実験	11	課題	100%	0%	100%	0%	55%	45%	0%	0%
専門	スポーツ栄養学	講義	11	筆記	100%	0%	100%	36%	36%	27%	0%	0%
専門	スポーツ栄養学実習	実習	3	課題	100%	0%	100%	67%	33%	0%	0%	0%
専門	フードスペシャリスト論	講義	44	筆記	100%	0%	100%	11%	80%	9%	0%	0%
専門	フードコーディネーター論	講義	27	筆記	96%	4%	100%	0%	41%	52%	7%	0%
専門	マーケティング	講義	26	筆記	73%	8%	81%	0%	19%	35%	27%	19%
専門	オフィスワーク	講義	35	課題	100%	0%	100%	0%	23%	69%	9%	0%
専門	コンピュータⅠ	演習	75	課題	100%	0%	100%	59%	35%	7%	0%	0%
専門	コンピュータⅡ	演習	73	課題	100%	0%	100%	44%	44%	12%	0%	0%
専門	人間関係	講義	28	筆記	86%	4%	89%	4%	54%	32%	0%	11%
専門	臨床心理学	講義	27	筆記	83%	10%	93%	7%	23%	37%	26%	10%
専門	家庭経営学	講義	6	課題	100%	0%	100%	67%	17%	17%	0%	0%
専門	住居学	講義	4	筆記	100%	0%	100%	0%	50%	25%	25%	0%
専門	育児学	講義	7	課題	86%	0%	86%	14%	71%	0%	0%	14%
専門	被服学及び実習	講義・演習	4	課題	100%	0%	100%	0%	75%	25%	0%	0%
専門	被服学及び実習	講義・実習	3	課題	100%	0%	100%	33%	67%	0%	0%	0%
専門	家庭の医学	講義	27	課題	100%	0%	100%	0%	78%	22%	0%	0%
教職	道徳教育及び特別活動の研究	講義	3	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
教職	生徒指導論（栄養）	講義	3	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
教職	※栄養教育実習事前・事後指導	講義	15	課題	20%	0%	20%	0%	7%	13%	0%	80%
教職	※栄養教育実習	実習	3	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%

生活科学科(ビジネスコミュニケーションコース)

(平成19年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	くらしと英会話	講義	2	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	50%	50%	0%
基礎	健康とスポーツ	講義・実技	5	課題	100%	0%	100%	0%	20%	40%	40%	0%
専門	基礎栄養学Ⅰ	講義	5	筆記	100%	0%	100%	0%	20%	80%	0%	0%
専門	社会福祉論	講義	5	筆記	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
専門	情報処理	講義	5	筆記	80%	20%	100%	0%	20%	40%	40%	0%
専門	公衆衛生学	講義	62	筆記	98%	2%	100%	10%	44%	47%	0%	0%

専門	コンピュータⅠ	演習	6	課題	67%	33%	100%	0%	50%	17%	33%	0%
専門	コンピュータⅡ	演習	6	課題	67%	33%	100%	17%	17%	33%	33%	0%
専門	キャリアデザイン論	講義	5	筆記	100%	0%	100%	20%	60%	20%	0%	0%
専門	キャリアデザイン演習	演習	3	課題	100%	0%	100%	0%	67%	33%	0%	0%
専門	ビジネス文書処理	演習	5	課題	80%	20%	100%	0%	40%	20%	40%	0%
専門	ビジネス文書処理	演習	5	課題	80%	20%	100%	0%	40%	40%	20%	0%
専門	マネジメントシステム論	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	インターネット	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	60%	40%	0%	0%
専門	ネットワークコミュニケーション	講義	5	筆記	100%	0%	100%	0%	20%	20%	60%	0%
専門	コンピュータグラフィックス	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	情報システム論	講義	4	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
専門	ネットワークビジネス論	講義	9	課題	100%	0%	100%	0%	33%	44%	22%	0%
専門	ビジネス英語Ⅱ	演習	4	筆記	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	地域経済	講義	11	課題	73%	0%	73%	0%	55%	18%	0%	27%
専門	地域政策	講義	2	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	コミュニケーション論	講義	5	筆記	100%	0%	100%	20%	40%	20%	20%	0%
専門	福祉ビジネス論	講義	8	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	社会保障Ⅰ	講義	5	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	80%	20%	0%
専門	社会保障Ⅱ	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	家庭の医学	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	60%	40%	0%	0%
専門	介護Ⅰ	講義	4	課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	0%
専門	介護Ⅱ	講義	4	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	介護技術	実技	3	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	介護実習	実習	3	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	食品学	講義	5	筆記	100%	0%	100%	0%	20%	80%	0%	0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単 位認定 の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
生活科学科平均					95%	3%	98%	13%	45%	31%	9%	2%

アート・デザイン学科

(インテリアコース/グラフィックデザインコース/ファッションデザインコース/マンガ・イラスト・絵画コース)

(平成19年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位の認定方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	美術理論及び美術史	講義	64	筆記	83%	5%	88%	0%	5%	36%	47%	13%
基礎	コミック文化論	講義	78	筆記	95%	5%	100%	1%	26%	55%	18%	0%
基礎	インターネット	講義	54	課題	96%	0%	96%	9%	54%	31%	2%	4%
基礎	英会話	講義	46	筆記	96%	2%	98%	0%	30%	52%	15%	2%
基礎	国語表現	講義	57	筆記	84%	5%	89%	0%	12%	47%	30%	11%
基礎	文化人類学	講義	77	筆記	100%	0%	100%	3%	23%	62%	12%	0%
基礎	心理学	講義	77	筆記	100%	0%	100%	31%	45%	12%	12%	0%
基礎	日本国憲法	講義	63	筆記	95%	3%	98%	0%	71%	24%	3%	2%
基礎	体育講義	講義	47	課題	100%	0%	100%	19%	51%	23%	6%	0%
基礎	体育実技	実技	47	課題	100%	0%	100%	19%	51%	23%	6%	0%
基礎	生活と社会 (校外活動・海外研修等含)	演習	64	課題	98%	0%	98%	0%	17%	81%	0%	2%
専門	基礎デザインⅠ	演習	44	課題	100%	0%	100%	0%	34%	66%	0%	0%
専門	基礎デザインⅠ	演習	38	課題	100%	0%	100%	0%	29%	63%	8%	0%
専門	基礎デザインⅡ	演習	44	課題	98%	0%	98%	2%	27%	68%	0%	2%
専門	基礎デザインⅡ	演習	38	課題	97%	3%	100%	0%	29%	58%	13%	0%
専門	絵画	演習	35	課題	97%	0%	97%	0%	23%	54%	20%	3%
専門	絵画	演習	29	課題	97%	3%	100%	0%	21%	66%	14%	0%
専門	工芸	演習	34	課題	100%	0%	100%	0%	21%	65%	15%	0%
専門	工芸	演習	38	課題	100%	0%	100%	0%	29%	63%	8%	0%
専門	工芸	演習	10	課題	90%	10%	100%	0%	30%	40%	30%	0%
専門	彫塑	演習	44	課題	100%	0%	100%	0%	34%	61%	5%	0%
専門	彫塑	演習	38	課題	100%	0%	100%	5%	34%	55%	5%	0%
専門	デッサン	演習	44	課題	100%	0%	100%	9%	16%	70%	5%	0%
専門	デッサン	演習	38	課題	97%	3%	100%	0%	18%	55%	26%	0%
専門	色彩	講義	82	筆記	100%	0%	100%	0%	32%	34%	34%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅠ	演習	11	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅠ	演習	71	課題	100%	0%	100%	4%	79%	17%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅡ	演習	11	課題	100%	0%	100%	0%	82%	18%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅡ	演習	23	課題	100%	0%	100%	17%	43%	35%	4%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅡ	演習	48	課題	100%	0%	100%	15%	69%	17%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅢ	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅢ	演習	15	課題	100%	0%	100%	20%	13%	60%	7%	0%

専門	コンピュータグラフィックスⅢ	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	90%	10%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅢ	演習	32	課題	97%	0%	97%	3%	47%	44%	3%	3%
専門	コンピュータグラフィックスⅣ	演習	4	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅣ	演習	10	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅣ	演習	9	課題	100%	0%	100%	11%	33%	44%	11%	0%
専門	コンピュータグラフィックスⅣ	演習	25	課題	72%	0%	72%	12%	52%	8%	0%	28%
専門	コンピュータ理論	講義	47	課題	100%	0%	100%	11%	43%	36%	11%	0%
専門	インテリアⅠ	演習	11	課題	100%	0%	100%	0%	27%	73%	0%	0%
専門	インテリアⅡ	演習	11	課題	100%	0%	100%	0%	55%	45%	0%	0%
専門	インテリアⅢ	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	インテリアⅣ	演習	4	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	グラフィックⅠ	演習	23	課題	100%	0%	100%	0%	30%	70%	0%	0%
専門	グラフィックⅡ	演習	23	課題	100%	0%	100%	4%	39%	52%	4%	0%
専門	グラフィックⅢ	演習	16	課題	100%	0%	100%	0%	44%	56%	0%	0%
専門	グラフィックⅣ	演習	15	課題	100%	0%	100%	7%	67%	27%	0%	0%
専門	ファッションⅠ	演習	10	課題	90%	10%	100%	0%	20%	20%	60%	0%
専門	ファッションⅡ	演習	10	課題	100%	0%	100%	10%	40%	30%	20%	0%
専門	ファッションⅢ	演習	10	課題	100%	0%	100%	30%	60%	10%	0%	0%
専門	ファッションⅣ	演習	10	課題	100%	0%	100%	50%	30%	20%	0%	0%
専門	ビジュアルⅠ	演習	38	課題	100%	0%	100%	5%	50%	39%	5%	0%
専門	ビジュアルⅡ a	演習	28	課題	96%	4%	100%	7%	57%	32%	4%	0%
専門	ビジュアルⅡ b	演習	10	課題	90%	10%	100%	10%	50%	30%	10%	0%
専門	ビジュアルⅢ a	演習	26	課題	96%	4%	100%	4%	38%	31%	27%	0%
専門	ビジュアルⅢ b	演習	9	課題	100%	0%	100%	0%	78%	22%	0%	0%
専門	ビジュアルⅣ a	演習	27	課題	85%	15%	100%	7%	19%	48%	26%	0%
専門	ビジュアルⅣ b	演習	7	課題	100%	0%	100%	0%	71%	29%	0%	0%
専門	ユニバーサルデザインⅠ	講義	62	筆記	90%	6%	97%	10%	29%	37%	21%	3%
専門	ユニバーサルデザインⅡ	講義	50	筆記	94%	2%	96%	8%	36%	40%	12%	4%
専門	クラフトデザインⅠ	演習	5	課題	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
専門	クラフトデザインⅠ	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
専門	クラフトデザインⅠ	演習	42	課題	100%	0%	100%	12%	29%	43%	17%	0%
専門	クラフトデザインⅡ	演習	5	課題	80%	0%	80%	40%	40%	0%	0%	20%
専門	クラフトデザインⅡ	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	30%	70%	0%	0%
専門	クラフトデザインⅡ	演習	38	課題	100%	0%	100%	11%	42%	37%	11%	0%
専門	フィールドワークⅠ	演習	21	課題	100%	0%	100%	10%	29%	62%	0%	0%
専門	フィールドワークⅠ	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	20%	80%	0%	0%
専門	フィールドワークⅠ	演習	34	課題	100%	0%	100%	0%	24%	65%	12%	0%
専門	フィールドワークⅡ	演習	8	課題	100%	0%	100%	0%	88%	13%	0%	0%

専門	フィールドワークⅡ	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	0%
専門	フィールドワークⅡ	演習	31	課題	100%	0%	100%	0%	35%	52%	13%	0%
専門	表現	講義	74	課題	99%	0%	99%	1%	14%	64%	20%	1%
専門	造形	講義	65	課題	100%	0%	100%	0%	31%	57%	12%	0%
専門	コミュニケーション概論	講義	62	筆記	95%	3%	98%	2%	24%	61%	11%	2%
専門	メディア文化論	講義	5	筆記	100%	0%	100%	20%	20%	60%	0%	0%
専門	メディア文化論	講義	46	筆記	87%	2%	89%	18%	38%	22%	11%	11%
専門	メディア文化論	講義	10	課題	100%	0%	100%	10%	70%	20%	0%	0%
専門	空間演出論	講義	82	課題	100%	0%	100%	0%	12%	85%	2%	0%
専門	創作過程論	講義	32	課題	97%	0%	97%	16%	28%	47%	6%	3%
専門	イベント計画	講義	18	課題	94%	0%	94%	0%	0%	94%	0%	6%
専門	図形表現	講義	77	課題	100%	0%	100%	61%	31%	8%	0%	0%
専門	設計計画	講義	11	筆記	100%	0%	100%	18%	45%	36%	0%	0%
専門	設計計画	講義	10	課題	100%	0%	100%	0%	10%	50%	40%	0%
専門	設計計画	講義	57	課題	100%	0%	100%	9%	23%	65%	4%	0%
専門	卒業制作①	演習	10	課題	100%	0%	100%	0%	60%	40%	0%	0%
専門	卒業制作②	演習	4	課題	100%	0%	100%	25%	75%	0%	0%	0%
専門	卒業制作③	演習	15	課題	100%	0%	100%	13%	67%	20%	0%	0%
専門	卒業制作④	演習	17	課題	100%	0%	100%	6%	47%	41%	6%	0%
専門	卒業制作⑤	演習	17	課題	100%	0%	100%	6%	59%	29%	6%	0%
教職	※教師論	講義	4	課題	100%	0%	100%	25%	50%	25%	0%	0%
教職	教育学	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
教職	教育心理学	講義	5	筆記	100%	0%	100%	40%	40%	20%	0%	0%
教職	※美術科教育法	講義	4	課題	100%	0%	100%	0%	0%	50%	50%	0%
教職	道德教育研究	講義	1	課題	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%	0%
教職	※道德教育研究	講義	3	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
教職	教育方法論	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
教職	生徒指導論	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	80%	20%	0%	0%
教職	教育相談	講義	5	課題	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
教職	総合演習	演習	6	課題	100%	0%	100%	83%	17%	0%	0%	0%
教職	総合演習	演習	1	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
教職	※教育実習	実習	5	課題	100%	0%	100%	0%	20%	80%	0%	0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
アート・デザイン学科平均					98%	1%	99%	9%	42%	40%	9%	1%

看護学科

(平成19年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単 位認定 の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	人間発達学	演習	87	筆記	99%	0%	99%	74%	25%	0%	0%	0%
基礎	人間関係論	演習	87	筆記	99%	0%	99%	41%	51%	7%	0%	1%
基礎	家族論	演習	86	筆記	100%	0%	100%	36%	56%	8%	0%	0%
基礎	教育学	演習	86	筆記	86%	14%	100%	20%	24%	42%	14%	0%
基礎	情報科学	講義・演習	88	課題	97%	3%	100%	9%	86%	1%	3%	0%
基礎	情報科学	講義・演習	87	課題	99%	0%	99%	3%	94%	1%	0%	1%
基礎	環境と人間	講義	87	筆記	99%	0%	99%	34%	48%	16%	0%	1%
基礎	行動科学	演習	88	課題	97%	3%	100%	65%	26%	6%	3%	0%
基礎	衛生統計学	演習	86	筆記	100%	0%	100%	13%	42%	45%	0%	0%
基礎	看護英語	演習	88	筆記	58%	42%	100%	0%	33%	25%	42%	0%
基礎	英語	講義	33	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
基礎	人間工学	講義	85	筆記	100%	0%	100%	58%	38%	5%	0%	0%
基礎	カウンセリング理論	講義	85	筆記	98%	2%	100%	4%	76%	18%	2%	0%
基礎	性保健学	講義	88	課題	100%	0%	100%	0%	27%	73%	0%	0%
基礎	生命科学	講義	85	課題	96%	0%	96%	0%	34%	62%	0%	4%
基礎	臨床心理学	演習	88	筆記	99%	1%	100%	19%	59%	20%	1%	0%
基礎	国際看護論	講義	92	課題	100%	0%	100%	32%	67%	1%	0%	0%
基礎	生化学（栄養学含む）	演習	90	筆記	53%	13%	66%	1%	13%	39%	12%	34%
基礎	人体の構造・機能Ⅰ	演習	90	筆記	89%	0%	89%	21%	39%	29%	0%	11%
基礎	人体の構造・機能Ⅰ	演習	10	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
基礎	人体の構造・機能Ⅱ	演習	90	筆記	89%	0%	89%	21%	39%	29%	0%	11%
基礎	人体の構造・機能Ⅱ	演習	10	筆記	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
基礎	人体の構造・機能Ⅲ	演習	90	筆記	81%	18%	99%	14%	24%	42%	18%	1%
基礎	疾病の成り立ちⅠ	演習	90	筆記	86%	13%	99%	16%	29%	41%	13%	1%
基礎	疾病の成り立ちⅡ	演習	85	筆記	99%	0%	99%	4%	64%	32%	0%	1%
基礎	疾病の回復促進Ⅰ(a)	講義・演習	88	筆記	99%	0%	99%	14%	55%	31%	0%	1%
基礎	疾病の回復促進Ⅰ(b)	講義・演習	87	筆記	51%	48%	99%	0%	7%	44%	48%	1%
基礎	疾病の回復促進Ⅱ(a)	講義・演習	89	筆記	97%	2%	99%	6%	63%	28%	2%	1%
基礎	疾病の回復促進Ⅱ(b)	講義・演習	89	筆記	85%	13%	98%	8%	24%	53%	13%	2%
基礎	疾病の回復促進Ⅲ(a)	講義	44	筆記	98%	2%	100%	9%	66%	23%	2%	0%
基礎	疾病の回復促進Ⅲ(b)	講義	46	筆記	98%	0%	98%	15%	59%	24%	0%	2%
基礎	医療関係法規	講義	86	筆記	98%	2%	100%	5%	48%	45%	2%	0%
基礎	社会保障	講義	88	筆記	89%	10%	99%	2%	42%	44%	10%	1%
基礎	医療概論	講義	87	課題	94%	5%	99%	7%	22%	66%	5%	1%

基礎	特別講義 I	講義	85	課題	100%	0%	100%	93%	7%	0%	0%	0%
基礎	特別講義 II (a)	演習	88	筆記	97%	3%	100%	10%	50%	36%	3%	0%
基礎	特別講義 II (b)	演習	88	筆記	97%	3%	100%	10%	51%	35%	3%	0%
専門	看護学概論 I	演習	88	筆記	100%	0%	100%	2%	47%	51%	0%	0%
専門	看護学概論 II	演習	86	筆記	91%	9%	100%	7%	45%	38%	9%	0%
専門	看護過程論	演習	88	筆記	91%	9%	100%	0%	9%	82%	9%	0%
専門	基礎看護技術 I	演習	88	筆記	72%	27%	99%	0%	17%	53%	28%	1%
専門	基礎看護技術 II	演習	88	筆記	70%	26%	97%	0%	11%	59%	26%	3%
専門	基礎看護学実習 I	実習	85	課題	100%	0%	100%	0%	25%	75%	0%	0%
専門	基礎看護学実習 II	実習	88	課題	94%	6%	100%	0%	17%	77%	6%	0%
専門	在宅看護論	演習	88	筆記	84%	10%	94%	0%	16%	69%	9%	6%
専門	在宅看護方法	演習	86	筆記	88%	12%	100%	6%	38%	44%	12%	0%
専門	在宅看護実習	実習	44	課題	89%	0%	89%	7%	32%	50%	0%	11%
専門	在宅看護実習	実習	31	課題	100%	0%	100%	0%	45%	55%	0%	0%
専門	成人看護学概論	講義	88	筆記	100%	0%	100%	0%	8%	92%	0%	0%
専門	成人看護方法 I	演習	87	筆記	99%	0%	99%	0%	18%	80%	0%	1%
専門	成人看護方法 II	演習	89	筆記	100%	0%	100%	0%	54%	46%	0%	0%
専門	成人看護方法 III	演習	90	筆記	84%	14%	99%	2%	23%	59%	14%	1%
専門	成人看護方法 IV	演習	86	筆記	79%	21%	100%	1%	17%	60%	21%	0%
専門	成人看護学実習 I	実習	44	課題	91%	0%	91%	0%	16%	75%	0%	9%
専門	成人看護学実習 I	実習	32	課題	97%	0%	97%	0%	28%	69%	0%	3%
専門	成人看護学実習 II	実習	47	課題	96%	0%	96%	0%	13%	83%	0%	4%
専門	成人看護学実習 II	実習	26	課題	96%	0%	96%	0%	4%	92%	0%	4%
専門	老年看護学概論	講義	87	筆記	92%	7%	99%	0%	57%	34%	7%	1%
専門	老年看護方法 I	演習	89	筆記	97%	2%	99%	1%	52%	44%	2%	1%
専門	老年看護方法 II	演習	86	筆記	98%	2%	100%	0%	50%	48%	2%	0%
専門	老年看護学実習	実習	47	課題	98%	0%	98%	0%	51%	47%	0%	2%
専門	老年看護学実習	実習	25	課題	100%	0%	100%	8%	64%	28%	0%	0%
専門	小児看護学概論	講義	87	筆記	74%	25%	99%	2%	8%	63%	25%	1%
専門	小児看護方法 I a	演習	86	筆記	100%	0%	100%	12%	71%	17%	0%	0%
専門	小児看護方法 I b	演習	86	筆記	98%	2%	100%	3%	51%	43%	2%	0%
専門	小児看護方法 II	演習	86	筆記	97%	3%	100%	2%	47%	48%	3%	0%
専門	小児看護学実習	実習	33	課題	82%	0%	82%	0%	9%	73%	0%	18%
専門	小児看護学実習	実習	47	課題	100%	0%	100%	0%	40%	60%	0%	0%
専門	母性看護学概論	講義	87	筆記	52%	47%	99%	0%	3%	48%	47%	1%
専門	母性看護方法 I (a)	演習	90	筆記	91%	8%	99%	8%	36%	48%	8%	1%
専門	母性看護方法 I (b)	演習	89	筆記	76%	22%	99%	1%	19%	56%	22%	1%
専門	母性看護方法 II	演習	86	課題	100%	0%	100%	2%	31%	66%	0%	0%

専門	母性看護学実習	実習	42	課題	95%	0%	95%	0%	52%	43%	0%	5%
専門	母性看護学実習	実習	32	課題	100%	0%	100%	0%	44%	56%	0%	0%
専門	精神看護学概論	講義	85	筆記	96%	2%	99%	0%	22%	74%	2%	1%
専門	精神看護方法Ⅰ	演習	88	筆記	98%	2%	100%	0%	55%	43%	2%	0%
専門	精神看護方法Ⅰ	演習	86	筆記	100%	0%	100%	5%	80%	15%	0%	0%
専門	精神看護方法Ⅱ	演習	86	課題	99%	1%	100%	21%	33%	45%	1%	0%
専門	精神看護学実習	実習	48	課題	88%	0%	88%	0%	25%	63%	0%	13%
専門	精神看護学実習	実習	30	課題	100%	0%	100%	0%	37%	63%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅰ (クリティカル看護)(a)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅰ (クリティカル看護)(b)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	86%	14%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅰ (クリティカル看護)(c)	講義	7	課題	100%	0%	100%	14%	86%	0%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅱ (感染症看護論)(a)	講義	6	課題	100%	0%	100%	33%	67%	0%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅱ (感染症看護論)(b)	講義	6	課題	100%	0%	100%	0%	83%	17%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅲ (がん看護論)(a)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	71%	29%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅲ (がん看護論)(b)	講義	6	課題	100%	0%	100%	0%	83%	17%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅲ (がん看護論)(c)	講義	6	課題	100%	0%	100%	0%	17%	83%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅳ (家族看護論)(a)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅳ (家族看護論)(b)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	29%	71%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅳ (家族看護論)(c)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅴ (ターミナル看護論)(a)	講義	7	課題	100%	0%	100%	0%	43%	57%	0%	0%
専門	課題別看護論Ⅴ (ターミナル看護論)(b)	講義	6	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
看護学科平均					93%	5%	98%	9%	42%	43%	5%	2%

専攻科助産学専攻

(平成19年度修了生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
基礎	助産学概論(a)	演習	17	筆記	100%	0%	100%	53%	41%	6%	0%	0%
基礎	助産学概論(b)	演習	17	筆記	100%	0%	100%	0%	24%	65%	12%	0%
基礎	性・生殖の形態・機能・病態Ⅰ／Ⅱ	講義	17	筆記	100%	0%	100%	6%	24%	35%	35%	0%
基礎	性・生殖の形態・機能・病態Ⅱ／Ⅲ	講義	17	筆記	76%	24%	100%	0%	6%	18%	76%	0%
基礎	性・生殖の形態・機能・病態Ⅳ	講義	17	課題	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%
基礎	母子の健康科学Ⅰ(a)	演習	17	課題	100%	0%	100%	0%	59%	41%	0%	0%
基礎	母子の健康科学Ⅰ(b)	演習	17	筆記	88%	12%	100%	6%	24%	41%	29%	0%
基礎	母子の健康科学Ⅱ(a)	演習	17	筆記	100%	0%	100%	6%	59%	29%	6%	0%
基礎	母子の健康科学Ⅱ(b)	演習	17	課題	100%	0%	100%	0%	71%	29%	0%	0%
基礎	母性・父性の心理社会学(a)	演習	17	課題	100%	0%	100%	18%	82%	0%	0%	0%
基礎	母性・父性の心理社会学(b)	演習	17	課題	100%	0%	100%	35%	18%	35%	12%	0%
実践	助産診断・技術学Ⅰ	講義	17	筆記	94%	6%	100%	0%	65%	24%	12%	0%
実践	助産診断・技術学Ⅱ(a)	演習	17	筆記	100%	0%	100%	6%	47%	35%	12%	0%
実践	助産診断・技術学Ⅱ(b)	演習	17	筆記	100%	0%	100%	0%	59%	35%	6%	0%
実践	助産診断・技術学Ⅲ	演習	17	筆記	100%	0%	100%	0%	35%	53%	12%	0%
実践	助産診断・技術学Ⅳ	演習	17	筆記	100%	0%	100%	0%	88%	6%	6%	0%
実践	地域母子保健	講義	17	筆記	100%	0%	100%	0%	82%	18%	0%	0%
実践	助産管理	講義	17	筆記	94%	6%	100%	0%	41%	35%	24%	0%
実践	助産診断・助産技術学実習	実習	17	課題	100%	0%	100%	0%	71%	29%	0%	0%
実践	助産業務管理実習	実習	17	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
実践	地域母子保健実習	実習	17	課題	100%	0%	100%	0%	82%	18%	0%	0%
総合	助産学研究	演習	17	課題	100%	0%	100%	0%	65%	29%	6%	0%
総合	助産学研究	演習	17	課題	100%	0%	100%	0%	65%	29%	6%	0%
総合	助産学英語表現法	講義	17	筆記	100%	0%	100%	24%	35%	29%	12%	0%
総合	情報管理	講義	17	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	0%
総合	助産学特論	講義	17	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%
総合	助産学特論	講義	17	課題	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価				
					%			%				
					本試験	追再試験	計	秀	優	良	可	不可
専攻科助産学専攻平均					98%	2%	100%	9%	53%	27%	10%	0%

(2) 学科長による、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状分析

①生活科学科

健康栄養コースが栄養士養成施設でもあるため、学科の評価基準については到達度を考慮した厳格な評価であるよう申し合わせてはいるが、本試験での単位取得が95%であり、ほとんどの教科で85%以上の単位取得率である。また80%以上評点である秀・優を取得している学生が約6割である。数字だけ以前と比べると、単位認定の厳格さに欠けるような印象があるが、教員の授業方法等における創意工夫の結果とも考えられる。試験問題等の教員間での相互評価等も検討していきたい。

②アート・デザイン学科

単位取得率は99%であり、ほとんどの学生が履修登録した科目の大部分の単位を取得している状況である。学生と教員の努力の結果であると考え、厳格な成績評価基準の下で実施された単位認定であるか否か、個々の教科について検討する必要があると考える。成績評価については、得点率80%以上の秀・優の評価が約50%であり、60点以上80点未満の良の評価が40%であることから、全体としては偏りの少ない評価であると考え。「課題」を主な単位認定の方法にしている教科が多いが、学科特性から考えて、問題ないと考え

③看護学科

単位取得率は98%であるが、必修教科がほとんどであるカリキュラムから考えて、適切であると考え。ただ、単位取得率が60%台の教科や、単位取得率が80%台の学外実習科目があり、これらについては適正な評価基準による適正な評価であったか、検討が必要であると考え。成績評価については、得点率80%以上の秀・優の評価が約50%であり、60%以上の良評価が43%であった。全体としてはバランスの良い成績評価であったと考える。

④専攻科助産学専攻

全員が修了でき、ほとんどが必修科目なので、結果として単位取得率は100%となっている。最終の成績評価としては、得点率80%以上の秀・優の評価が約60%であり、70%以上の良評価が27%であった。全体として少し得点率が高い傾向にあるといえるが、加えて教科によって評価のばらつきが多い。学生の得意・不得意分野にも関係していると考えられるが、成績評価基準の不統一とも考えられる。どちらにしても対策を考えなければならないので、各教科の成績評価について、検討する必要があると考える。

(3) 学長による、短期大学全体の単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についての分析。

各学科の特性にしたがった単位認定の方法であり、適切に実施されていると考える。栄養士、看護師国家試験受験資格等の資格に係る学科においては、筆記試験が原則となっており、アート・デザイン学科は課題提出が基本となっている。成績評価については、おおむね正当な評価がなされていると考えるが、評価が平均から著しく逸脱している教科目については、学生の理解度、評価基準の不適正のいずれかが原因と考えられるので、どちらにしても学生に不利益を及ぼしかねないので、関係の委員会等で検討する必要があると考える。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後の「学生の満足度」についての調査概要

学期末に実施している授業評価以外には、全体としての満足度について、設問に入れていないが、教員は、授業評価の「授業内容と方法について」や「教師について」に関する評価から、学生のニーズをくみ取っている。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについての、学科長の現状把握

① 生活科学科

学生授業評価アンケート結果からは、授業に参加する学生が多数であるが、「熱意をもって」や「予習・復習」などの積極性にややかける部分がみられている。そのために学生が講義の中で栄養士としてのイメージを持つことが可能になるよう、専門用語の理解を進める工夫、興味をひく教材の選択、資料の扱い方の工夫、プロジェクタの利用などの工夫を凝らし、学生たちの興味・関心を引き出すよう努力している。

② アート・デザイン学科

本学科専門科目に対する「学生による授業評価」については、授業の内容や方法は概ね高評価を示しており、担当教員の平素からの努力の結果と受け止めている。演習科目の作品制作については学生の積極的な取り組みが不可欠であり、そうした状況をいかに作り出していくかが課題となる。今後、満足度を上げるために必要な個々の事例について、共有すべきと考えられる点については学科打ち合せ時等を利用して情報交換して行く予定である。

③ 看護学科

担当教員は看護師国家試験の合格を一つの目標とし、授業を展開している。そのため内容がやや高度になってしまいうことがあり、学生の授業評価アンケートでは、教師の説明の仕方や学生の理解度への配慮などがやや不足している部分がみられる。そのため、講義の中では看護師国家試験との結びつきが明確になるような専門用語の理解を進め、学生たちの興味・関心を引き出すよう努力している。

④ 専攻科助産学専攻

授業評価に基づいて学生の満足度を真摯に受け止め、どの教員も前年度の評価を参考にして講義の形式、内容などを創意工夫して変化させている。この努力を積み重ねて毎年教育技術を工夫し高めあっている。

(3) 学長による短期大学全体の現状分析。

学生の学力や関心は多様化しており、どのレベル照準を合わせて授業を展開するのか、また学習の評価を行うのか、年々難しい状況にあることは事実である。

今後も、学生の学習意欲を喚起するとともに、学生の努力を適正に評価することにより学生の満足度を高めるよう努めたい。授業に関する満足度は高いと考えている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の退学、休学、留年等の数

生活科学科退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度入学	平成18年度入学	平成19年度入学	備考
入学者数	93	78	92	
うち退学者数	4	5	4	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	-	-	-	
うち留年者数	0	0	0	
卒業生数	89	73		

アート・デザイン学科退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度入学	平成18年度入学	平成19年度入学	備考
入学者数	39	68	83	
うち退学者数	2	5	2	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	-	-	-	
うち留年者数	0	0	0	
卒業生数	37	63		

看護学科

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度入学	平成18年度入学	平成19年度入学	備考
入学者数	91	91	88	
うち退学者数	18	3	2	
うち休学者数	4	4	0	
休学者のうちの復学者数	1	2	-	
うち留年者数	9	0	0	
卒業生数	64			

専攻科助産学専攻

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度入学	平成18年度入学	平成19年度入学	備考
入学者数	17	17	17	
うち退学者数	0	0	0	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	-	-	-	
うち留年者数	0	0	0	
修了生数	17	17	17	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状(各学科)

①生活科学科

退学理由としては約4割が「進路変更」であり、また同数が「一身上の都合」である。平成19年度に関しては、「進路変更」を理由とした退学の割合が増加している。休学・留年者はいない。

②アート・デザイン学科

退学理由として過去3年間にあげられているのは、約44%が「進路変更」であり、次いで「一身上の都合」である。平成19年度は、授業料未納による除籍というケースが2件あった。休学・留年者はいない。

③看護学科

過去3年間において、退学理由としてあげられていた約3分の2が「進路変更」である。

次いで「一身上の都合」「健康上の理由」が約6分の1弱である。平成19年度に関しては、「一身上の理由」「健康上の理由」の割合が増えており、特に「一身上の理由」の具体的内容としては、経済的理由が主たる原因である場合が多いようである。休学者・留年者については、担当学年の担任である教員ができる限りコミュニケーションを密にとるよう心がけている。

- ④ 専攻科
該当無し

(3) 各学科長による退学、休学、留年等の現状分析

① 生活科学科

過去3年間については、4～5名であり、それほど多くの退学者は出していない。ただ、学生数が少なくなっているのに、多いときとほぼ同じというのは、学生指導上、工夫すべき点があるように思える。クラス担任等が必ず個人面談を実施しているが、日常においても、担任を中心とした各教員が学生と密にコミュニケーションをとるようにしていきたい。

② アート・デザイン学科

平成18年度から、入学者は増えたが退学者も増加している。しかし、在籍者比ではそれほどの変化はないので、大きな問題があるとは考えていない。ただ、平成19年度に2名の除籍者を出したのは、経済的理由もあるが、学生指導の点で問題がなかったとは言えないと考える。今後は、学生の経済的な面にも少なからず気を配りながらの学生指導を心がけたい。

③ 看護学科

平成17年度入学生の退学者が非常に多かった。担任を中心に学生指導により、対処をしているが、平成19年度にも7名の退学者があった。個別の指導が不徹底であったこと、特に学力不足の学生への指導が少し足りなかったのではないかと考える。また、「進路変更」を理由とした退学が多いので、入学前の募集活動において、看護師の仕事内容や短期大学での学習内容について、今まで以上に徹底して説明することが必要であると考えます。

④ 専攻科

目的意識のしっかりとした学生がほとんどであるため、退学等の問題は生じていない。

(4) 学長による短期大学全体の現状分析。

平成17年度入学生の退学率が10%と突出しており、平成18年度入学生の約2倍となっている。とりわけ平成17年度入学生の看護学科の退学率が約20%となっており、今後は決してこうした状況にならぬよう、十分な検討と対策が必要である。クラスの雰囲気等の要素もあると考えるが、現時点では初年次の生活・学業指導の不足や国家試験対策の偏重などにより、自身の能力に不安を感じ、進路変更を考える学生が多かったのではないかと考える。まずは、初年次の生活・学業指導を充実させ、また学生の不安・懸念を払拭するよう担任を中心とした教員が学生コミュニケーションを密にするなどの対策を実施していきたい。さらに、募集段階でも受験生に対して、学科内容等について詳しい説明を行うようにしていきたい。

【資格取得の取組みについて】

取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）（各学科）

①生活科学科

免許・資格・検定	取得希望者(人)	取得者(人)	取得率(%)
栄養士(栄養士養成課程)	62	62	100
栄養教諭2種	3	3	100
訪問看護師養成研修(2級課程)	8	8	100
医事管理士	11	9	82
医療管理秘書士	31	31	100
医療事務士	24	24	100
ピアヘルパー	16	9	56
介護保険事務管理士	4	4	100
フードスペシャリスト	26	18	69
環境マネージャー	44	44	100

②アート・デザイン学科

免許・資格・検定	取得希望者(人)	取得者(人)	取得率(%)
中学校教諭2種免許状(美術)	5	5	100
商品装飾展示技能士(2級)	1	1	100
商品装飾展示技能士(3級)	19	15	79
カラーコーディネーター検定(2級)	2	0	0
カラーコーディネーター検定(3級)	29	17	59
商業施設士補	3	3	100
環境マネージャー	65	65	100

③看護学科

看護師国家試験受験資格者92名

④免許・資格・検定の取得状況専攻科

助産師国家試験受験資格者17名

免許・資格・検定	取得希望者(人)	取得者(人)	取得率(%)
幼児安全法支援員	16	16	100
受胎調節実地指導員	17	17	100

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科ごとの専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）

① 生活科学科

平成19年度卒業生については、就職希望者70名のうち74%にあたる52名が専門就職先に就職している。内訳は、栄養士・食品技術者・医療事務職であり、短期大学で学習した内容を生かせる職種についている卒業生が多い。

② アート・デザイン学科

平成19年度卒業生については、53名の就職希望者のうち約23%にあたる12名が専門就職先に就職していると見られる。デザイナー等の専門就職者であるのか正確に見きわめるのが難しいのであるが、後述するように就職率が振るわない一方で、就職者は自分の専門を生かして就職できている率が高いようである。

③ 看護学科

平成19年度卒業生の就職者についても例年と同様に、100%が看護師として就職している。62名中62名という結果である。

④ 専攻科助産学専攻

平成19年度修了生についても、17名の修了者中17名が病院もしくは診療所（産科婦人科）に就職している。よって専門就職率は100%である。

(2) 卒業生に対する就職先及びその他の進路先からの評価

① 生活科学科

栄養士養成施設として、長年の実績があり、病院・給食事業所・保育園等に勤務する栄養士が多いため、本学生活科学科卒業生に対する評価は高い。即戦力として期待されている。そのため、専門就職率も高い。

② アート・デザイン学科

近隣地域にデザイン系の短大はないせいか、在学中のコンテスト等での入賞者が多いので、実力的には地域社会から認められていると考える。それが、需要との関係で就職率には結びついていないのであるが、デザイン系の職種に就職できた学生に対する評価は全体的に高い。

③ 看護学科

看護職としての就職がほとんどであるが、地域医療支援病院や特定機能病院への就職者が多く、またそうした病院からの求人も多い。特に、地域社会の医療の担い手としての期待は高く、平成20年3月卒業生は、学校周辺地域の病院にかなりの人数が就職した（例：桐生厚生病院16名、など）。群馬県東毛地域においては、本学の卒業生への期待がかなり高い。

④ 専攻科助産学専攻

地域の助産師養成としての期待が高く、休職して進学してくる学生も多い。ほとんどの卒業生が地域の助産業務において、重要な役割をはたしている。

(3) 卒業生に対する社会の評価

「社会に出て役立つ人間の育成」を建学の精神・教育理念として、教育を行っているため、本学の卒業生が地域社会で活躍するケースが多い。伝統ある栄養士養成においては、群馬県東毛地域で卒業生がかなり重要な役割を担っている。看護・専攻科についても、地域医療における期待は高く、近年は地域医療に携わる卒業生が多く、地域の期待に応えるものになっている。デザインについても、専門職として活躍する卒業生が数多くいる。

《V 学生支援》の記述及び資料等について

【入学に関する支援について】

(1) 建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像を入学志願者に対し、明示している方法、手段。

建学の精神・教育理念、設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像の具体的な情報提供は、大学案内パンフレットなどの印刷物やホームページのほか、オープンキャンパス、高校訪問、進学説明会、高校での出張模擬授業等を通じて、入学志願者だけでなく、高校教員、保護者等に行っている。

(2) 入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）を入学志願者に対し、明示している方法、手段の概要

学生募集要項には入学者選抜の方針、選抜方法を詳しく示してある。また、本学教員による高校訪問の際、高校の進路指導の教員に入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試）等を説明している。その他、電話、電子メールによる質問にも随時対応している。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要

広報課及び入試課でそれぞれ広報、入試事務を担当している。前者は、学校案内・その他パンフレットなどの原案作成、業者選定・依頼・折衝等の業務、広告紙への掲載に関する業務、オープンキャンパスの企画・運営、進学説明会の対応などの業務を行ってきた。後者は、入試委員会により決定された入試概要の広告、入試問題の作成依頼・確認・印刷等、また入試の運営を業務としていた。平成20年度入試からは新設される大学の入試広報、入試運営を設置認可申請中という制約の中で実施するという困難な業務を担当した。短期大学の入試については、定員減、看護学科の募集停止という状況下で募集活動、入試を実施した。

(4) 選抜方法ごとの願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れの概要。および多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうかの現状。

平成20年度募集の入学試験については、生活科学科、アート・デザイン学科および専攻科について実施した。

生活科学科およびアート・デザイン学科の試験区分としては、推薦入試、一般入試、AO入試、特別選抜入試（社会人・留学生・帰国子女）の4種であった。

推薦入試は、11月17日、12月22日の2回実施し、出身学校長の推薦がある者について出願資格を与え、試験当日に面接を実施した。合否判定は面接と調査書の総合評価で、教授会において実施し、それに基づき合否通知を発送した。

一般入試は、2月2日、3月15日の2回実施した。生活科学科は「国語」「英語Ⅰ・Ⅱ」「数学Ⅰ・A」「生物Ⅰ」のうちから1科目を選択、アート・デザイン学科は「国語」「英語Ⅰ・Ⅱ」「鉛筆デッサン」「イメージ画」の4科目のうち、1科目を選択することとした。入学試験要項に従った点数補正を行い、それに基づき教授会で合否判定を実施し、その結果を合否通知として発送した。

A O入試の流れは次の通りである。まず、A O入試志願者はエントリーシートを提出し、さらに前もって広告されていた課題を提出する。それら書類・提出課題について一次審査を実施し評価する。その後、二次審査の日程・時間を連絡し、二次審査では、一次審査で提出した課題を基に、受験生が来校し発表する。それに対して面接担当者が質疑応答を行い、それらの結果を評価する。一次審査と二次審査の結果を総合評価として教授会に諮り、合否判定をし、合否通知を発送したという流れである。A O入試は三期にわたって実施し、一期は10月6日に、二期は12月22日に、三期は3月8日に二次審査を実施した。

特別選抜入試は、社会人・留学生・帰国子女を対象とした12月22日に実施した入試である。試験科目は「小論文」と「面接」であり、教授会で「小論文」「面接」を総合評価し、合否判定を行い、その結果を通知した。

専攻科については、推薦入試と一般入試をそれぞれ1回ずつ実施した。12月22日に推薦入試を、2月2日に一般入試を実施した。推薦入試の試験科目は「小論文」「面接」であり、短期大学もしくはそれと同等の養成校卒業予定者（現役）で短大などの看護師養成校等の学校長の推薦のある者に受験資格が与えられた。合否判定は、「小論文」「面接」「書類」の総合評価で行われ、教授会の結果、合否通知を発送した。一般入試については、原則として看護師国家試験の受験資格を持っている者に受験資格が与えられ、「基礎看護学」「母性・小児看護学」の学科試験と「面接」「書類」の総合評価で合否を判定した。推薦入試同様、教授会の合否判定の結果、合格通知を発送した。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているか

入学以前の学生生活情報としては、入学式についての案内及び遠方者へは下宿情報を送付している。授業や学生生活についての情報提供は、入学後のオリエンテーションにて実施している。

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要

入学者に対しては、入学後に全体及びクラスごとのオリエンテーションを実施し、大学生活上の注意、防犯指導や履修指導、取得可能な資格などについて指導を行っている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要

オリエンテーションは、入学式の翌日の午前午後で実施した。第一部、第二部と時間帯を分けて実施している。その中で、科目選択、履修登録等について、教務課及び各クラス担任によるガイダンスを行っている。

在学生については、学期の始めと学期の終わりにクラス担任による科目履修や学生生活支援についてのガイダンスを行っている

(2) 基礎学力不足の学生に対し行っている補習授業等の取組みの概要。

リメディアル教育などの組織的な対応は特別に行っていないが、各担当教員が授業を通じて基礎学力不足の学生の個別支援を行える体制をとっている。

学科によっては、物理、日本語能力向上などの基礎学力の養成に主眼を置いた選択科目を開講している。

(3) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制

各クラスに担任、副担任がおり、学習面、生活面において学生の対応を行っている。

(4) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援。

組織的な支援体制はとられていない。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状

事務組織である「学生部」とその下にある「進路支援室」および教員組織で「学生支援委員」が学生生活の支援を担当した。学生の日常生活相談・支援(奨学金等含む)、クラブ・サークル活動、学友会、学生主体の行事、などについては、「学生部」所属の担当教職員と「学生支援委員」が協力して担当した。「進路支援室」は就職・進学等への支援を行い、「学生支援委員」もそれに協力した。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況(指導体制及び学生の活動状況含む)

① クラブ活動

バレーボール、バスケットボール、フットサル、バトミントン、テニス、茶道、イラスト、軽音、グリーンエコ、ボランティア、が公認されている。

バスケットボール(女子)は、平成19年に全国私立短期大学体育大会でBブロックながら優勝している。また群馬県私大スポーツ大会でも優勝しており、同大会では、フットサル(男子)も3位と優秀な成績を挙げている。これらのクラブ活動は、各クラブで時間を設定し、週に1回程度行われており、学科や学年を超えた交流の場として、正規の授業では得られない貴重な経験が出来る機会となっている。

② 学友会

学友会は全学生加入のもと、学生の自主的な活動により、品格教養の向上、学術・文化の探求、大学発展への寄与をはかり、心身共に健康な人間の育成を目的とする。全学生の意見を取り入れるために、各学科、学年、クラスから代議委員を2～4名選出し、学友会役員が組織されている。代議委員は代議委員会を定期的に開催し、学友会主催の行事、学園祭や学園フェスティバルの企画運営など様々な活動を行っている。これらの活動において、学生委員会に所属する教員やクラス担任は補佐し、助言するなどの指導体制をとっている。

③ 学園祭

学園祭(輝一きらめき一祭)と学園フェスティバルは、学友会の中心行事であり、学生が自主的に様々な催しを企画し運営する。平成19年度の学園祭は、附属幼稚園との合同学園祭であった。実施に当たっては、代議委員会を中心にテーマを決定し(平成19年度は「大和魂」)、学生委員会所属の教員の助言、指導も行われながら、計画・準備が進められた。

各学科による研究発表や作品展示等に加え、模擬店の出店、野外ステージでは、ファッションショーやライブ等の催しが行われた。また、平成記念ホールでは、看護学科の戴帽式、芸能人によるパフォーマンス、猿まわし等のイベントも開催され、盛況に終了した。近隣の住民や卒業生、高等学校の生徒が多数来校し、学生と教員が一つになり、親交を深める事が出来た。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要

① コミュニティーホール（2号館）

鉄筋2階建1259㎡ 1階円形ラウンジには大画面TVを設置。

2階には多目的ホールが整備され食事場所としても利用可能である。

② 保健室

4号館及び10号館にそれぞれベッド1台を設置した保健室を置き、体調不良者、傷病者に対応している。

③ 食堂、売店

本学では学生食堂・売店の営業はなされていない。

学生の昼食は主に9号館第2試食室、2号館コミュニティーホール2階の使用を促している。また、各号館の教室を指定開放し、昼食場所としている。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要

本学では、学生寮を設置していない。そこで、遠方からの進学者に対しては、入学手続き後に指定業者を紹介して、アパートの斡旋を行う体制を整えている。

また、通学の便宜には、スクールバスを授業に合わせて運行、また150台分の学生駐車場も完備している。

(5) 平成19年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金の概要

本学学生が対象となる奨学金の種類には、日本学生支援機構奨学金（第1種奨学金（無利子）と第2種奨学金（有利子））、交通遺児育英会、あしなが育英会、その他各都道府県の奨学金制度、本学独自の関崎ミレニアム奨学金がある。平成19年度における日本学生支援機構奨学金の貸与者は表のとおりである。

日本学生支援機構奨学金の貸与者数（人）とその割合（％）

第1種奨学金の貸与者	51
第2種奨学金の貸与者	131
第1種と第2種の併用貸与者	13
合計	195
全学生に占める貸与者割合（％）	32.1％

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要

「学校保健委員」が学生の日常の健康管理に関する業務を担当していた。具体的には、保健室の管理、具合が悪くなった学生の対応、学生健康診断の企画及び当日運営などの業務を行った。

(7) 学生支援のための学生個々の情報等の記録についての保管・保護のシステム

学生の個人情報の取扱いについては、本学「個人情報保護に関する規程」のもと、教務システム等で管理され、教育・学生支援に必要なデータは、所定の手続きの上利用できることになっている。特に重要書類は、金庫保管または、各部署ごとに鍵付きキャビネット等で保管している。

【進路支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の学科別就職状況

① 生活科学科

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度 卒業生		平成18年度 卒業生		平成19年度 卒業生	
	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合
a 卒業者数	89		97		74	
b 就職希望者数	b/a	78 87.6%	88 90.7%		70 94.6%	
c うち学校で斡旋した 就職者数	c/b	-	-		37 52.9%	
d うち自己開拓した 就職者数	d/b	-	-		26 37.1%	
e うち就職未定者数	e/b	7 9.0%	11 12.5%		6 8.6%	
f 進学・留学希望者	f/a	4 4.5%	9 9.3%		2 2.7%	
g その他	g/a	7 7.9%	0 0.0%		3 4.1%	

② アート・デザイン学科

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度 卒業生		平成18年度 卒業生		平成19年度 卒業生	
	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合
a 卒業者数	62		37		63	
b 就職希望者数	b/a	45 72.6%	33 89.2%		53 84.1%	
c うち学校で斡旋した 就職者数	c/b	-	-		4 7.5%	
d うち自己開拓した 就職者数	d/b	-	-		15 28.3%	
e うち就職未定者数	e/b	25 55.6%	4 12.1%		34 64.2%	
f 進学・留学希望者	f/a	0 0.0%	1 2.7%		7 11.1%	
g その他	g/a	17 27.4%	3 8.1%		3 4.8%	

③ 看護学科

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度 卒業生		平成18年度 卒業生		平成19年度 卒業生	
	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合
a 卒業者数	73		85		73	
b 就職希望者数	b/a	67 91.8%	80 94.1%		63 86.3%	
c うち学校で斡旋した 就職者数	c/b	-	-		29 46.0%	
d うち自己開拓した 就職者数	d/b	-	-		34 54.0%	
e うち就職未定者数	e/b	0 0.0%	0 0.0%		1 1.6%	
f 進学・留学希望者	f/a	6 8.2%	5 5.9%		10 13.7%	
g その他	g/a	0 0.0%	1 1.2%		0 0.0%	

④ 専攻科助産学専攻

(平成20年3月31日現在)

区分	平成17年度 卒業生		平成18年度 卒業生		平成19年度 卒業生	
	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合	人数 (名)	割合
a 卒業者数	17		17		17	
b 就職希望者数	b/a	17 100.0%	17 100.0%		17 100.0%	
c うち学校で斡旋した 就職者数	c/b	-	-		4 23.5%	
d うち自己開拓した 就職者数	d/b	-	-		13 76.5%	
e うち就職未定者数	e/b	0 0.0%	0 0.0%		0 0.0%	
f 進学・留学希望者	f/a	0 0.0%	0 0.0%		0 0.0%	
g その他	g/a	0 0.0%	0 0.0%		0 0.0%	

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状

「学生部」の下に置かれた「進路支援室」が就職支援を行っていた事務組織である。また、「学生支援委員」が教員組織として「就職支援室」と連携して、学生の就職支援を行っていた。具体的な業務としては、就職ガイダンスの企画・運営、就職相談、求人票の管理・広告、求人企業等の対応、などを行っていた。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状及び学生への就職情報等の提供状況

就職資料室に就職雑誌、求人情報(票)などを設置している。また、各学科の「学生支援委員」に同様の就職雑誌、求人情報(票)を配布し、学生が手軽に情報提供を受けられるようにしている。また、PCが自由に利用できる時間を設定しており、求人情報やエントリーが学内のPCを使ってインターネット上でできるようにしている。

(4) 平成19年度の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績及び支援方法、体制について。

平成19年度についての学科ごとの四年制大学進学者は次の通りである。

①生活科学科

高崎経済大学 2名

②アート・デザイン学科

武蔵野美術大学 2名 女子美術大学 1名、文星芸術大学 1名

③看護学科

高崎健康福祉大学 1名、桐生大学短期大学部専攻科 9名

進学希望者についても「進路支援室」および「学生支援委員」が個別相談、進路情報提供などの支援を行っている。

【多様な学生に対する支援について】

平成19年度の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況、及び学習支援、生活支援の方法、体制

留学生・社会人・帰国子女を対象とした「特別選抜入試」を実施している。「小論文」「面接」を選考方法としている。また、「科目等履修生」(学則第52条)も受け入れており、その募集・入試も実施している。

平成19年度においては、「特別選抜入試」を利用して入学した留学生・社会人・帰国子女はなく、また「科目等履修生」も応募がなかった。

【特記事項について】

学生支援において努力していること(例：学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等)

①個人情報保護への取組み

本学では平成17年4月より施行された「個人情報に関する法律」に基づいて、個人情報保護規程を制定し、学生の個人情報保護に取り組んでいる。教育上個人情報の取得、活用が必要な場合に備えて、学生に対して入学時に取得する個人情報及び在籍中の教育活動の中で取り扱う個人情報の目的利用、個人情報第三者への提供について書面で通知し、同意書の提出を求め学生の個人情報の保護に努めるとともに、円滑な学校運営を図っている。

②成績不良者への支援

成績不良者に対しては、各学期の期末試験の後に追再試験期間を設け、救済措置を取っているほか、担任、副担任が個別に指導を行っている。

③長期欠席者

長期欠席者に対しては、担任が本人及び保護者と連絡をとり状況を把握した上、指導にあたっている。

④ 学生に対する表彰制度等

全国栄養士養成施設協会会長表彰、日本教育カウンセラー協会賞、医療教育協会賞、日本フードスペシャリスト協会賞がある。

《VI 研究》の記述及び資料等について

【教育の研究活動全般について】

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の専任教員の研究状況

平成17年度～19年度 専任教員の研究実績表(学科等の順に記述)

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
生活科学科	関崎 悦子	教授	0	9	1	0		有	
	榮 昭博	教授	0	3	1	1			
	野中 博雄	教授	0	3	0	0			
	栢沢 龍次郎	教授	0	2	0	0			
	松原 直樹	教授	0	1	0	1			
	栗原 サト子	准教授	0	2	1	0			
	橋本 まさ子	准教授	0	4	0	0			
	マチャコン H. T. C	准教授	0	6	0	0			
	小林 恒雄	専任講師	0	0	0	0			
	石井 広二	専任講師	0	3	0	0			
	荒井 勝己	専任講師	1	1	1	1			
	中澤 朋弘	専任講師	0	1	0	1			
	亀岡 聖朗	専任講師	1	2	10	1			
	中島 君恵	専任講師	0	5	0	1			
	橋爪 博幸	専任講師	1	2	0	2			
中山 優子	専任講師	0	3	9	1	有	有		
アート・ デザイン 学科	小島 弘一	教授	0	1	1	0			
	森 佐和子	教授	0	0	0	0			
	久保田 恵美子	教授	0	1	0	23			
	杉戸 信雄	教授	0	0	0	29			
	石黒 康弘	教授	0	3	0	9			
	松村 誠一	准教授	0	0	0	8			
	小松原 洋生	専任講師	0	0	0	17			
山本 博一	専任講師	0	1	0	17				

看護学科	多田隈 卓史	教授	0	7	5	0		
	瀬野尾 章	教授	0	7	2	0		
	錦織 正子	教授	3	0	13	2	有	
	鈴木 はるみ	准教授	0	9	0	1		
	本多 洋子	准教授	0	2	0	0		
	森田 恵子	専任講師	0	4	0	0		
	三木 園生	専任講師	0	5	5	6		
	石沢 敦子	専任講師	0	3	1	0	有	
	上星 浩子	専任講師	0	7	5	0		
	酒井 美子	専任講師	0	1	3	0		
	高瀬 佳苗	専任講師	0	4	0	1	有	
	石田 順子	専任講師	1	6	8	2		
	世良 喜子	専任講師	0	0	0	0		
	福島 きよの	専任講師	0	0	1	1	有	
	浅井 直美	助教	0	6	4	1		
専攻科	今関 節子	教授	3	3	0	6	有	
	青木 康子	教授	5	1	0	0		
	鈴木 由美	准教授	0	8	3	0		
	濱寄 真由美	講師	2	1	3	0	有	
	橋爪 由起子	助教	0	4	2	0		

平成 19 年度 研究成果

①生活科学科

著書

1. 亀岡聖朗

『心理学基礎実験と質問紙法』、

㈱培風館、平成 19 年 5 月、共著（編者：石原治、著者：遠藤忠・羽生和紀・石原治・亀岡聖朗・北村世都・野村康治・佐々木心彩・臼井信男・檜木てる子・山下雅子）

（担当箇所）

「社会的態度－サーストーン法－」 p.85-p.89.

「社会的態度－リカート法」 p.90-p.94.

論文

1. 榮 昭博、関崎 悦子

「膵臓および唾液 α -アミラーゼ活性に及ぼす食品等の抽出物の影響」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 17-22. 平成 19 年 12 月

2. 野中 博雄

「色彩語の意味分析-日英語(みどり, green)比較を中心として-

- 『桐生短期大学紀要』第18号, 23-30. 平成19年12月
3. 橋本 まさ子、石井 広二、中島 君恵、松岡 千枝子
「桐生短期大学における栄養教諭養成課程の現状とその課題」
『桐生短期大学紀要』第18号, 95-102. 平成19年12月
4. 中島 君恵、田中 景子、橋本 まさ子、工藤 貴子、関崎 悦子、瀬野尾 章
「給食管理実習における地場野菜の利用状況について」
『桐生短期大学紀要』第18号, 103-108. 平成19年12月
5. マチャコン・ヘルチェル、志賀 聖一
「ニューラルネットワーク:日々の太陽光発電出力量の予測」
『桐生短期大学紀要』第18号, 45-48. 平成19年12月
6. 石井 広二、佐口 勇治
「教育支援環境としての学内LAN整備とその効果」
『桐生短期大学紀要』第18号, 63-68. 平成19年12月
7. 亀岡 聖朗
「学習が食に対する態度に及ぼす影響について—学生の自己評価に基づく学習効果の心理学的研究—」
『桐生短期大学紀要』第18号, 69-78. 平成19年12月
8. 中山 優子
「マレーシアのクラン市における健康調査—マレー系と中国系の比較」
『桐生短期大学紀要』第18号, 87-94. 平成19年12月
9. 中山 優子
「マレーシアの食環境と健康づくり—骨密度測定と身体計測の調査—」
『高崎経済大学地域政策学会 地域政策研究』 平成19年7月

学会発表

1. 亀岡 聖朗
「大学への環境移行に関する心理学的研究—環境認知と愛着による大学への適応の検討—」
人間・環境学会第14回大会発表、平成19年5月、単独
2. 中山 優子
「群馬県太田市女性の骨粗鬆症予防とスキムミルクに関する研究」
第54回 日本栄養改善学会、公衆栄養—栄養教育Ⅱ（長崎県 国際会議場）、平成19年9月20日、単独
3. 中山 優子
「女性の骨粗鬆症予防とスキムミルクによる効果に関する調査 第2報」
第54回日本栄養改善学会、公衆栄養—ライフステージⅡ（長崎県 国際会議場）、共同
4. 中山 優子
「STUDY ON NUTRITION AND FOOD HABITS OF MALAYSIAN PUPILS」（マレーシアの食生活調査）、

XI International Congress of Auxology Human Growth in a Changing Life Style,
Tokyo, Japan Toshi Center Hotel
September 9-12, 2007 (平成 19 年 9 月)、単独

その他

1. 橋爪博幸

「熊楠のフィールド調査と思想形成 一粘菌、糸田の猿神社、岩陰遺跡、磯間の猿神社」、
第 6 回 南方熊楠ゼミナール (東京都)、平成 19 年 11 月、単著

2. 橋爪博幸

「桐生短期大学で行ってきた環境負荷低減活動と環境教育」、
平成 19 年度「地球温暖化防止活動推進員等第 4 回全体研修会」(群馬県前橋市)、平
成 20 年 1 月、単著

3. 中山 優子

「幼児期の食育」について、
平成 19 年度ぐんま県民カレッジ (主催：群馬県教育委員会、場所：桐生市立中央公民
館)、平成 19 年 10 月

受賞

1. 中山 優子

群馬県あさを賞受賞 (平成 20 年 3 月)

②アート・デザイン学科

論文

1. 小島 弘一

「ドレイピア第一書簡の修辞法」
『桐生短期大学紀要』第 18 号, 1-8. 平成 19 年 12 月

学会発表等

1. 小島 弘一

「スウィフト認証法」
日本英語表現学会、平成 19 年 6 月

その他

諸報告・芸術作品

1. 石黒 康弘

「イラストレーション 一日常と非日常」
『桐生短期大学紀要』第 18 号, 145-146. 平成 19 年 12 月

展覧会等

1. 松村 誠一

「第 75 回 日本版画協会展」、版画 1 点、平成 19 年 4 月、東京都美術館

2. 小松原 洋生

「第 57 回 モダンアート展」、CG 作品 2 点、平成 19 年 4 月、東京都美術館

3. 杉戸 信雄

「桐生市展」、油絵 1 点、平成 19 年 5 月、市文化会館展示ホール

4. 久保田 恵美子

「一店一作家運動 特別展覧市」、コサージュ 15 点、平成 19 年 5 月、桐生市有鄰館 レンガ蔵

5. 久保田 恵美子

「第 63 回 現展」、デザイン 2 点、平成 19 年 6 月、国立新美術館

6. 久保田 恵美子

「日本の絹展」、コサージュ 10 点、平成 19 年 7 月、日本橋高島屋 8 階ホール

7. 杉戸 信雄

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、アクリル他 5 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

8. 久保田 恵美子

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、デザイン 8 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

9. 久保田 恵美子

常陳、デザイン 2 点、平成 19 年 9 月、長野ギャラリーくろさわ

10. 石黒 康弘

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、イラストレーション 2 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

11. 松村 誠一

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、版画 2 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

12. 小松原 洋生

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、CG 作品 2 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

13. 山本 博一

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、立体作品 1 点、平成 19 年 9 月、ギャラリーくろさわ

14. 杉戸 信雄

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、アクリル 2 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊

15. 久保田 恵美子

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、デザイン 8 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊

16. 石黒 康弘
「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、イラストレーション 2 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊
17. 松村 誠一
「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、版画 2 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊
18. 小松原 洋生
「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、CG 作品 2 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊
19. 山本 博一
「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、立体作品 1 点、平成 19 年 9 月、つかさ画廊
20. 久保田 恵美子
「群馬現展」、デザイン 6 点、平成 19 年 9 月、太田市学習文化センター
21. 杉戸 信雄
「桐生美術協会小品展」、アクリル 2 点、平成 19 年 9 月、長崎屋展示室
22. 久保田 恵美子
「2007 GENTEN DESIGN EXHIBITION」、デザイン 2 点、平成 19 年 9～10 月、ギャラリー八重洲・東京
23. 杉戸 信雄
「汎美術協会秋季展」、油絵 2 点、平成 19 年 10 月、東京都立美術館
24. 杉戸 信雄
「群馬県美術会 現展」、油絵 1 点、平成 19 年 11 月、県立美術館
25. 小松原 洋生
「モダンアート群馬支部展」、CG 作品 2 点、平成 19 年 11 月、高崎シティーギャラリー
26. 杉戸 信雄
「桐生市美術協会年末助け合い展」、色紙 5 点、平成 19 年 11～12 月、桐生島画廊
27. 石黒 康弘
個展「いしぐろやすひろイラスト小品展」、イラストレーション 22 点、平成 19 年 11～12 月、ギャラリー沙蔵
28. 杉戸 信雄
個展、油絵他 20 点、平成 20 年 2 月、ギャラリーにいさと
29. 杉戸 信雄
「桐生美術協会展」、油絵他 2 点、平成 20 年 2 月、市文化会館展示ホール
30. 杉戸 信雄
「汎美術協会展」、油絵 2 点、平成 20 年 3 月、国立新美術館
31. 杉戸 信雄
「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、アクリル 2 点、平成 20 年 3 月、自由が丘もみの木画廊
32. 久保田 恵美子

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、デザイン 12 点、平成 20 年 3 月、もみの木画廊

3 3. 石黒 康弘

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、イラストレーション 6 点、平成 20 年 3 月、もみの木画廊

3 4. 山本 博一

「桐生短期大学アート・デザイン学科研究室展」、立体作品 1 点、平成 20 年 3 月、もみの木画廊

③看護学科

論文

1. 瀬野尾章、瓜生 恭平、儘田 明央、岡田 久美子、羽山 忠良

「Whipple 病の超微形態」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 9-16. 平成 19 年 12 月

2. 中島 君恵、田中 景子、橋本 まさ子、工藤 貴子、関崎 悦子、瀬野尾 章

「給食管理実習における地場野菜の利用状況について」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 103-108. 平成 19 年 12 月

3. 本多 洋子、石沢 敦子

「母性看護学実習における看護学生のストレスの緩和をはかる教員の指導要因についての検討」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 117-123. 平成 19 年 12 月

4. 森田 恵子、永田 美和子

「老年看護学実習における看護技術体験率と技術教育のあり方」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 49-54. 平成 19 年 12 月

5. 上星 浩子

「看護場面における患者・看護師の曖昧表現の認識」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 55-62. 平成 19 年 12 月

6. 酒井 美子、土肥しげ子

「看護学生の精神看護学実習におけるカルテに頼らない情報収集の意義」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 39-44. 平成 19 年 12 月

7. 石田 順子、石田 和子、神田 清子

「看護学生の死生観に関する研究」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 109-116. 平成 19 年 12 月

8. 浅井 直美

「看護早期体験実習における学生の視点からみた学習経験」

『桐生短期大学紀要』第 18 号, 31-38. 平成 19 年 12 月

学会発表

1. 錦織正子

「地域看護実習施設における事業内容の違いからみた学生の学びの特徴について」、
第10回日本地域看護学会（神奈川）、平成19年7月、共同（田村麻里子、池田智子、
錦織正子）

2. 錦織正子

「地域・職域連携の実態と課題－I 県内の地域・職域各保健機関へのインタビュー調査
より－」、

第10回日本地域看護学会（神奈川）、平成19年7月、共同（池田智子、中村歩衣、岩
永由香、樫村知恵、田村麻里子、錦織正子）

3. 上星浩子

「看護場面におけるあいまい表現の認識と臨床判断（査読付き）」、

第33回日本看護研究学会学術集会、平成19年7月、共同（上星浩子、小坂橋喜久代、
松田たみ子）

4. 浅井直美、上星浩子、小山英子、三木園生

「基礎看護技術Iにおける学生が意味づけした経験に関する研究（査読付き）」、

日本看護学教育学会第17回学術集会、平成19年8月

5. 上星浩子、浅井直美、小山英子、三木園生

「バイタルサイン測定技術習得における学生の困難－学内演習後のレポート分析から
－（査読付き）」、日本看護学教育学会第17回学術集会、平成19年8月

6. 福島きよの

「教員養成大学幼児教育専修学生がとらえた子どもの健康問題」、

日本養護教諭教育学会、平成19年10月

その他

1. 飯出 美枝子、鈴木 はるみ

「成人看護学実習における実習の不安と生活状況の関連性について」

『桐生短期大学紀要』第18号, 125-130. 平成19年12月

2. 福島 きよの、高瀬 佳苗

「看護学科における感染症対策の一考察」

『桐生短期大学紀要』第18号, 141-144. 平成19年12月

④専攻科

著書

1. 青木康子（代表）、濱寄 真由美（共著）

「マタニティ診断ガイドブック第2版」、

医学書院、平成19年6月、日本助産診断・実践研究会編著

2. 青木康子（代表）、濱寄 真由美（共著）

「実践マタニティ診断」、

医学書院、平成19年7月、日本助産診断・実践研究会編著

論文

1. 鈴木 由美

「モラル・ハラスメントについての調査—看護職はカップル間の精神的暴力をどのようにとらえるか—」

『桐生短期大学紀要』第18号, 79-86. 平成19年12月

その他

1. 今関節子

「Design of the Japan Nurses' Health Study : A Prospective Occupational Cohort Study of Women's Health in Japan.」

(日本ナースヘルス研究デザイン: 日本における職業を持つ女性の健康に関わる前向きコホート研究)、industrial health 7月特集号、平成19年7月、共著(林邦彦、水沼英樹、藤田利治、鈴木庄亮、今関節子、片野田耕太、松村康弘、久保田俊郎、麻生武)

2. 今関節子

「指定規則改正の対応を通して追求する大学・短期大学における看護学教育の発展」(全25頁)、文部科学省、平成19年4月、共著(平山朝子、石垣和子、稲吉久美子、井上智子、今関節子、小西美智子、新道幸恵、戸田肇、中山洋子、菱沼典子、森美智子)

3. 鈴木 由美

「学生がとらえたモラル・ハラスメント—助産師学生の男女精神的暴力に関する講義より—」

『桐生短期大学紀要』第18号, 131-136. 平成19年12月

4. 鈴木 由美

「過去2年間にみる医学英語に対する助産師学生のニーズ」

『桐生短期大学紀要』第18号, 137-140. 平成19年12月

(2) 教員個人の研究活動の状況の公開についての取組みの概要

本報告書以外では、特に公開していない

(3) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)

外部研究資金の申請・採択状況(平成17年度～19年度)

外部資金調達先等	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	無	無	無	無	無	無
その他の外部資金	無	無	無	無	無	無

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況

学科において、組織的なグループ研究もしくは共同研究は行っていないが、アート・デザイン学科において、教員の作品展覧会については共同で行っている。ただし、共通のテーマを設定してはいない。

【研究のための条件について】

(1) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保についての概要

桐生短期大学紀要を年1回発表している。桐生短期大学の専任教員であれば投稿することができる。6月30日エントリーの締切、9月30日原稿締切、11月に発行することとなっている。

(2) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況

各教員には、1部屋1～2名の研究室が割り振られている。各号館の研究室には広さに差があるため、比較的広い部屋を2名部屋としている。教授・准教授については、原則として個室としている。

(3) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況

教員は、研修計画に基づき研修日を取得することができる。目安は週1日であるが、研修計画の内容によってはその限りでない。取得した研修については、事後に成果についての報告書を提出することとなっている。現状では学生が登学していない時期（夏休み・年度末等）に集中して研究時間を確保する教員が多い。

《Ⅶ 社会的活動》の記述及び資料等について

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組み、及びその理念や方針等、教育・研究における位置づけ

建学の精神・教育理念が「社会に出て役立つ人間の育成」であるから、学生に対しても社会貢献の重要性については、行事や講演等の際には、折に触れて強調している。具体的には、環境への配慮、ボランティア活動などを推進している。研究においても「社会的有用性」の高い研究成果が数多く見られる。

(2) 社会人受け入れの状況、及び生涯学習の観点からの社会人の受け入れ方針

本学の場合、資格取得に直結する学科が多いので、会社勤めをしながら学習をするという学生はほとんどいない。いったん会社・事業所等を辞めるか、休職して入学する学生が多い。専攻科の入学者については、そういった学生が数多くいる。ただし、社会人枠として入学している学生は、全学科について平成19年度は在籍してしない。

「社会に出て役立つ人間の育成」という観点から、社会人の受け入れに対する姿勢は積極的であり、専攻科以外については特別選抜入試を設けている。

(3) 平成19年度に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況

平成19年度	内 容	受講者数
11月4日	公開講座 「笑いで健康促進」 講師 スピードワゴン	約400名

(4)平成19年度の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動

みどり市については、社会福祉協議会と連携し、高齢者への給食サービス（シルバー弁当）や食に関するボランティア活動（独居高齢者宅への年末のおせち料理配達）を実践している。

【学生の社会的活動について】

(1)平成19年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況

みどり市や桐生市の地域活動に参加している。その主なものは下記の通りである。

- ・桐生市ファッションウィーク
- ・桐生市八木節祭り
- ・桐生市・みどり市の各種イベントのポスター等への公募
- ・みどり市の高齢者給食サービス
- ・みどり市おせち料理配達サービス，他

(2)学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についての評価

上述のように、みどり市及び桐生市の多種多様なイベントに、たくさんの学生が参加しており、みどり市・桐生市当局及び商工会・青年会議所等の認知度も高くなってきている。学生は地域社会で一定の役割を果たしているといえる。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1)平成19年度の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況

生活科学科、アート・デザイン学科では、2年次に海外研修旅行を行っているが、平成19年度はイタリアへ研修旅行を行っており、イタリアの歴史や食文化、芸術を体験してきた。その際にイタリア国立ペルージャ外国人大学を訪問している。

看護学科では2年次にオーストラリア研修旅行を行っており、現地の文化だけでなく、医療制度などを実際に見学して国際感覚を学んでいる。

(2)平成19年度の短期大学と海外教育機関等との交流の状況

前項のとおり、生活科学科、アート・デザイン学科では、イタリア研修旅行でイタリア国立ペルージャ外国人大学を訪問し、現地の学生との交流を行っている。看護学科ではシドニー大学教育病院を見学し、現地の看護師や看護学生との交流を通して日本と違う看護の様子を研修してきた。

(3)平成19年度の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

該当なし

《Ⅷ 管理運営》の記述及び資料等について

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているか

理事長は、常勤であり、学園所属の各校について、現状を把握し、各所属長の意向を踏まえて、学園運営をしている。短期大学の現状把握については、起案・報告書等の書面を通して行っているが、学長や学科長と直接面談により、問題点を把握しようとするケースも多い。自身が短期大学教授であるため、学生の実情についてもよく理解している。

日常業務については、短期大学の各事務部署及び各学科からの起案・報告書については、関係部署の責任者に回覧の後、最終的には理事長が決裁をして意思決定がされることになる。なお、特に重要な事項について、特別に担当する機関等がない場合には、学長、事務の部課長及び学科長等よりなる合議体で原案を決定する。教授会審議事項である場合には、その後、教授会に諮ることになる。そうでない場合には、理事長の決裁で決定する。また、学園の運営に関わることについては、理事会の決定を要する。

(2) 平成19年度の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）及び理事会についての寄附行為上の規定

理事会開催状況（平成19年度）

開催年月日	主 な 議 案	出席者数	定数
平成 19.5.24(木)	1. 平成18年度 学校法人事業報告に関する件 2. 平成18年度 学校法人決算報告に関する件 3. 平成18年度 学校法人会計監査に関する件 4. 桐生大学設置に伴う寄附行為変更による評議員選出に関する件 5. 諸規程の一部改正ならびに制定に関する件 6. その他	6人	5～6人
平成 19.6.21(木)	1. 役員辞任に伴う欠員補充に関する件 2. 新校舎建設に伴う桐生第一高等学校サッカー場移転に関する件 3. 桐生第一高等学校サッカー部寄宿舍建設に関する件 4. その他	6人	5～6人
平成 20.1.31(木)	1. 学校法人桐丘学園 事務所所在地変更に伴う寄附行為変更に関する件 2. 桐生短期大学附属幼稚園 名称変更及び園則変更に関する件 3. 諸規程改正等に関する件 4. その他	6人	6～8人
平成 20.3.31(月)	1. 学校法人桐丘学園 平成20年度事業計画（案）に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成20年度予算（案）に関する件 3. 桐生大学附属幼稚園 定員変更に伴う園則変更に関する件 4. 桐生大学新館来客用駐車場の建設に関する件 5. その他（各校年度末の報告等）	6人	6～8人

「学校法人桐丘学園寄附行為」においては、理事会について下記の通り規定している。

(理事会)

第十六条 この法人に、理事をもって組織する理事会をおく。

2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

3 理事会は、理事長が招集する。

4 理事会は、理事総数の三分の二以上の理事から、会議に附議すべき事項を示して、理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。

5 理事会の招集は、各理事に対し会議開催の場所、日時および会議に討議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合には、前項および本項本文の規定にかかわらず、相当と認める方法で通知することができる。

7 理事会に議長をおき、理事長をもってあてる。

8 理事長が第四項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

ただし、第十二項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。

10 前項の場合において、理事会に附議される事項につき、他の理事に委任状を交付し、あらかじめ議決権の行使を委任した者は、前項の出席者とみなし、議決数に計上する。

11 理事会の議事は、法令およびこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

12 理事会の議決について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

理事の選任については、「学校法人桐丘学園寄附行為」第6条にしたがい、適正な手続きで専任されている。現員の理事の内訳は、所属長である1号理事が3名(定員2~3名)、「評議員のうちから互選により専任された」2号理事が1名(定員1名)、1号及び2号「理事の過半数により専任された」3号理事が2名(定員2名)である。したがって、私立学校法の規定に照らしても、適切な構成になっている。

(3) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成19年度における監事の業務執行状況

「学校法人桐丘学園寄附行為」において、監事の業務について下記のように規定している。

(監事の職務)

第十五条 監事は、次の各号にかかげる職務を行う。

一、この法人の業務を監査すること。

二、この法人の財産の状況を監査すること。

三、この法人の業務または財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会および評議員会に提出

- すること。
- 四、第一号または第二号の規定による監査の結果、この法人の業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、または理事会および評議員会に報告すること。
- 五、前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。
- 六、この法人の業務または財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

また、平成19年度の監事の業務執行状況は下記の通りである。

(1) 財産状況の監査

平成19年度会計決算に伴う会計帳簿類について、監査を実施。

監査の結果、異状なし。

平成19年度学校法人会計収入支出決算について理事会、評議員会において監査結果を報告。

また、公認会計士 園田昇、公認会計士 園田誠と連絡を取りながら指導を受けている。

(2) 業務状況の監査

毎回、理事会に出席し、法人の業務執行状況の掌握と運営について理事との協議、報告を実施している。

監査の結果、異状なし。

(4) 平成19年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）、及び評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会開催状況（平成19年度）

開催年月日	主 な 議 案	出席者数	定数
平成 19.5.24(木)	1. 平成18年度 学校法人事業報告に関する件 2. 平成18年度 学校法人決算報告に関する件 3. 平成18年度 学校法人会計監査に関する件 4. 桐生大学設置に伴う寄附行為変更による評議員選出に関する件 5. 諸規程の一部改正ならびに制定に関する件 6. その他	12人	11~15人
平成 19.6.21(木)	1. 役員辞任に伴う欠員補充に関する件 2. 新校舎建設に伴う桐生第一高等学校サッカー場移転に関する件 3. 桐生第一高等学校寄宿舎建設に関する件 4. その他	14人	11~15人
平成 20.1.31(木)	1. 学校法人桐丘学園 事務所所在地変更に伴う寄附行為変更に関する件 2. 桐生短期大学附属幼稚園 名称変更及び園則変更に関する件 3. 諸規程改正等に関する件 4. その他	14人	13~17人
平成 20.3.31(月)	1. 学校法人桐丘学園 平成20年度事業計画（案）に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成20年度予算（案）に関する件 3. 桐生大学附属幼稚園 定員変更に伴う園則変更に関する件 4. 桐生大学新館来客用駐車場の建設に関する件 5. その他（各校年度末の報告等）	14人	13~17人

「学校法人桐丘学園寄附行為」においては、評議員会について下記のように規定している。
(評議員会)

第二十一条 評議員は、評議員会を組織する。

- 2 評議員会は、理事長が招集する。
- 3 理事長は、評議員総数（現に在任する評議員および任期満了後なおその職務を行う評議員の総数をいう。以下同じ。）の三分の一以上の評議員から会議に附議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。
- 4 評議員会を招集するには、各評議員に対し、会議開催の場所、日時、および会議に附議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 5 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合には、前項および本項本文の規定にかかわらず、相当と認める方法で通知することができる。
- 6 評議員会に議長をおき、理事長がこれにあたる。
- 7 評議員会には、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決することができない。
- 8 前項の場合において、評議員会に附議される事項につき、他の評議員に委任状を交付し、あらかじめ議決権の行使を委任した者は、前項の出席者とみなし、議決数に計上する。
- 9 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 10 議長は、評議員として議決に加わることはできない。

(諮問事項)

第二十三条 次にかけらるる事項については、理事長はあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- 一、予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）および基本財産の処分ならびに運用財産中の不動産および積立金の処分。
- 二、事業計画。
- 三、予算外の新たな義務の負担または権利の放棄。
- 四、寄附行為の変更。
- 五、合併。
- 六、目的たる事業の成功の不能による解散。
- 七、寄附金品の募集に関する事項。
- 八、その他、この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの。

(評議員会の意見具申等)

第二十四条 評議員会は、この法人の業務もしくは財産の状況または役員業務執行

の状況について、役員に対して意見を述べ、もしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

【教授会等の運営体制について】

(1) 学長の短期大学の教育活動全般についてのリーダーシップ、及び短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているか

学長は、短期大学の教育活動全般に関する最終責任者であり、教授会を主宰し、また各委員会を統括する。短期大学の教育・研究に関わることについては、各委員会で検討し、その結果を教授会で審議し、最終的には学長が判断することとなる。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成19年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）

教授会について、学則上の規定は次の通りである。

第48条 本学に教授会を置き、学長、副学長、教授、准教授、を以て組織する。学長は教授会を招集し、その議長となる。

2) 学長は必要に応じて専任教職員を教授会に加えることができる。

第49条 教授会は、次の事項を審議する。

1. 学則および諸規定の制定、改廃に関する事項。
2. 教員の人事に関する事項。
3. 教育課程、授業および試験に関する事項。
4. 学生の入学、休学、復学、退学、転学、除籍および卒業に関する事項。
5. 学生の厚生補導に関する事項。
6. 学生の賞罰に関する事項。
7. 各種委員会の設置および廃止に関する事項。
8. その他大学の教育、研究および運営に関して、学長が必要と認めた事項。

第50条 前条の審議に基き学長が之を決裁する。

教授会開催状況（平成19年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	4	19	・桐生短期大学の一部廃止を含む組織変更と桐生大学の設置委員会等分掌案の承認	23名	23名
19	5	17	・入試委員会規程の制定	23名	23名
19	6	28	・学生による授業評価の内容の承認 ・自己点検評価運営委員会規程の制定	23名	23名
19	9	27	・学生の身分(退学等の承認) ・休学中の在籍料に関する規程の制定	21名	21名
19	10	9	・A0入試の判定	21名	21名
19	10	18	・学生の身分(退学の承認)	21名	21名
19	11	13	・指定高校対象推薦入試の判定	21名	21名
19	11	20	・桐生大学短期大学部推薦入学試験（A日程）の判定	21名	21名
19	11	29	・桐生大学短期大学部専攻科・学内推薦（桐生短期大学看護学科卒業予定者対象）の判定基準の決定	21名	21名

19	12	4	・桐生大学短期大学部専攻科・学内推薦（桐生短期大学看護 学科卒業予定者対象）の判定	21名	21名
19	12	21	・桐生大学短期大学部及び専攻科の入学試験判定基準の決定	21名	21名
19	12	26	・桐生大学短期大学部推薦入試等の判定 ・桐生短期大学の名称変更及び収容定員変更に伴う学則本文の改正 ・桐生大学短期大学部)の収容定員変更に伴う教育課程の改正	21名	21名
20	2	5	・桐生大学短期大学部(仮称) 一般入試（I期・専攻科）の判定 ・桐生大学短期大学部(仮称)のアート・デザイン学科の教育課程の変更に伴う学則の改正 ・桐生短期大学ハラスメント防止委員会に関する規程の制定	21名	21名
20	3	6	・桐生短期大学卒業・修了予定者の卒業・修了判定	21名	21名
20	3	17	・桐生大学短期大学部一般入学試験の判定	21名	21名
20	3	28	・学生の身分（退学等の承認）	21名	21名

(3) 教授会の下に置かれた各種の委員会等の名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー

委員会名	根拠規程	主 な 業 務	構成メンバー
自己点検評価委員会		<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価実施に係る運営をすること。 ・自己点検評価報告書を作成すること。 ・自己点検および評価の結果について、学内外に広く公開すること。 	榮，原田，野中，久保田，本多
個人情報保護委員会	個人情報保護に関する規則	<ul style="list-style-type: none"> ・次に掲げる事項について審議する。 (1) 個人情報の保護に関する全学的な施策に関する事項 (2) 個人データの適正な管理のための方法・措置に関する事項 (3) 個人データの開示、訂正等の各請求、又は苦情申立がなされたときに、学長に付議された事項 (4) 個人データの情報漏れ等の事故を防止するための方法・措置及び事故が生じた場合の対策等に関する事項 (5) その他個人情報の保護のために必要な事項 	松原、野中、石井、小松原
入試委員会	入試委員会規程	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜試験（学力試験、面接、小論文、実技、調査書その他による選抜）に関すること。 ・合格者判定資料に関すること。 ・学生募集に関わる広報に関すること。 ・その他 	学長、石黒、椛沢、榮、松原、瀬野尾、今関、久保田、荒井、中澤、石井、吉田順、内山、金子、福地

教務委員会 (FD委員会 を兼ねる)	教務委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の教育に係る規程の制定及び改廃に関する事項 ・転入学等に関する事項 ・学科の教育に関する事項 ・他大学・短期大学等との教育連携に関する事項 ・高等学校教育との連携に関する事項 ・社会と連携する教育及び社会人教育に関する事項 ・教職課程に関する事項 ・FDに関する事項、他 	松原、瀬野尾、中澤、今関、久保田、荒井、石井、亀岡、三木、小松原
倫理委員会	倫理委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査の対象となる事項に関し定められた手続きを経た申請に対し、検討する。 	松原、今関、久保田、荒井、石黒、瀬野尾、原田
科学研究行動規範委員会	科学研究行動規範委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> ・桐生短期大学の科学研究における行動規範に違反する不正行為に対処し行動規範の遵守を促す 	多田隈、松原、今関、荒井、石田、世良
動物実験委員会	動物実験委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> 動物実験責任者から提出された動物実験計画書が、適切かどうかを審査するとともに、適切な指導、助言を行う 	榮、荒井、松原、瀬野尾、亀岡、鈴木由、高瀬
紀要委員会	紀要投稿規程	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿原稿の受理 ・投稿原稿の採否と投稿原稿の種類の設定 ・出版先への依頼、投稿者との連絡・調整 	瀬野尾、マチャコン、野中、小松原、鈴木は、中山、吉田圭
図書委員会	図書委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の運営管理方針の決検討 ・図書館の事業計画策定 ・図書購入計画の検討 ・定期購読雑誌の検討 	マチャコン、吉田圭、鈴木は、中島、濱寄、山本、澤田、中村
ハラスメント防止委員会	ハラスメント防止委員会 規程	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する相談および苦情に対するための窓口を設け、相談員を置く。 ・ハラスメントに関する事実調査のため、調査員を置く。 ・ハラスメントに関する問題処理を行う。 ・ハラスメントを防止するため、学生及び教職員に対する啓蒙指導や広報活動を行う 	今関、橋本、小林恒、亀岡、久保田

【事務組織について】

(1)平成19年度の法人全体の事務組織図（短期大学の事務部門含）。短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務。

			経営企画室		
理事長	法人事務局 梶沢龍次郎[局長]		総務室		
	秘書室 太田道子[学園] 茂山華子[理事]		財務室		
			総務課	原田広幸[課長]	1 庶務全般、行事・儀式対応等 2 納付金等収納、補助活動等運営 3 統計調査及び報告等
			管理課	小林恒雄[課長]	1 施設、設備、備品の管理、保全、営繕 2 附属施設の保守、安全・警備、防犯 3 その他管理
	大学事務部 原田広幸[部長]		教務課	中澤朋弘[課長]	1 教授会、教育課程、試験、履修 2 学籍記録・報告、入退学・休学・復学等 3 その他教務
			入試課	吉田順子[課長]	1 入学試験の企画・運営 2 入試募集要項の作成 3 入試問題の作成依頼・とりまとめ
			広報課	山本博一[課長]	1 学生募集に関する広報 2 その他の広報
	大学学生部 瀬野尾章[部長]				1 下宿先・アルバイトの紹介・斡旋 2 通学・旅行、奨学、厚生補導、健康管理、証明書等
			進路支援室	野中博雄[室長]	1 就職・進学相談・斡旋 2 求人情報収集・提供、資料作成・保管

(2) 事務組織について整備している諸規程名

学校法人桐丘学園組織事務分掌規程

(3) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状

決裁については、各事務部署および各学科から起案書のかたちで短期大学事務局総務課に提出される。その際、各部門の責任者（学科長・事務部門の課長等）が起案者であるか、または承認している必要がある。その後、関係部署・学長に回覧をし、原則として、それら役職者の承認を得ることが必要である。その後、本部事務局の事務局長・理事長等に回覧し、それらの役職者の承認を得て、起案書が最終的に決裁されることになる。

短期大学長印は学長が、理事長印は理事長が鍵のかかる場所に保管している。重要書類については、4号館1階の耐火金庫に保管している。学籍簿・卒業

判定資料・入学判定資料等の教務・入試関係重要書類もそれらの耐火金庫に保管している。

防災については、各号館の各階・各教室・部署等に防火責任者をおき、防災マニュアルに基づき対応することとしている。なお、年1回は防災訓練を実施している。

情報システムについては、総務課が情報科目担当教員の助けを借りて日常的なPC端末及び学内通信網のメンテナンスおよびセキュリティ対策を講じている。

(4) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか

事務職員のうち、教務課及び学生課の職員は学生に直接対応する機会が多い。教務課については、履修届の提出とそのチェック、追再試験の手続、証明書の発行等、ルールに基づいて実施される事務が多いので、ルールを守らない学生に対しては学生指導の一環として厳しく対応するようにしている。それでも、ルールの範囲内では柔軟に対応しているので、学生と良好な関係にあると考える。学生課については、代議委員会という学生の代表者会議やクラブ・サークル活動を手助けしているが、学生の意向をよく聞いて活動しているので、比較的支持されていると考える。

(5) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状

各部門の事務研修会（財務、学校基本調査、学生募集、等）に担当者を出席させ、事務職員の能力向上及び事務処理の効率化に努めている。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題

短期大学教職員の就業時間は、8時50分から17時20分までである。以前は、4時間目までの授業で終了していたので、この勤務時間で問題がなかったのであるが、5時間目の授業を実施するケースが増えてきたので、事実上超過勤務とならざるを得ない場合が出てきている。出勤時間をずらしたり、職員については残業申請などで対応することとしているが、勤務時間自体の見直しを検討している。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係

理事長が短期大学の教授を兼務しており、学長が理事として理事会に出席するため、短期大学の意向は理事会に十分に伝わる環境にある。逆に、理事会の意向も短期大学教職員に伝わりやすい状況である。

(3) 教員と事務職員との関係

事務組織表の短期大学の事務組織において、役職者はほとんどが教員であるため、教員が事務組織について十分に把握している。教務や学生募集といった分掌についても、教員と事務職員が対立することはなく、双方がお互いの立場をよく理解できている。そうした反面、役職者の負担が大きいため、今年度から専任の幹部事務職員を増やしていくよう努力している。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状

教職員の健康管理については、労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に基づく健康診断を年1回実施しており、診断結果により治療・再検査等が必要な教職員には、を受診・再検査等の指導を行っている。

就業環境の改善については、順次教員にノートパソコン（Microsoft Office インストール済）を貸与し、ネット環境を整備している。教室についても、年次計画により順次整備し、多くの教室で情報機器の使用が可能となっている。

専任教員の勤務時間については、勤務時間をずらすなどの施策で対応しているが、授業担当時間数や校務分担により、一部教員の終業時間が遅い場合がある。できるだけ偏りを改善するため、全教員の勤務時間を把握する努力している。

《IX 財務》の記述及び資料等について

【財務運営について】

(1) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続き

各学科、課単位での行事、事業計画および前年度決算状況を基に法人事務局により予算案を作成し、3月の評議員会・理事会で決定される。

(2) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続き、及び財務諸規程名

理事会で決定した予算は、教授会及び学長を通して周知している。予算の執行に係る経理、業務の流れは次の通りである。

- (1) 起案書により学長、理事長の決裁を受け、発注・購入をおこなう。
- (2) 購入後、学内の所定用紙（支払請求書）を作成し、起案書の写し、納品書、請求書等を添付して大学事務局へ提出する。
- (3) 支払請求書を理事長まで決裁を受け支払いをおこなう。

(3) 平成19年度の公認会計士監査状況の概要、及び公認会計士の監査と監事との連携状況

日常の会計処理上において会計士の判断を求めるとみなされる場合は、その都度会計士に指導を受け適切な処理を行なっている。

監事の監査においては監事2名が理事会・評議員会に出席し理事の業務について報告を受けるとともに監査、指導を行なっている。また、会計監査については適宜会計士と意見交換をしている。

(4) これまでの財務情報の公開状況、また私立学校法第47条第2項に基づく財務情報の公開状況。

事務所へ財務計算書を備え置くと共に大学報へ掲載、学内掲示板へ掲示等により公開している。平成18年度からは学園のホームページ上へ以下の計算書類を掲載している。

掲載している書類

- ・財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、監査報告書、在籍学生数等一覧

(5) 寄附行為に基づく、資金等の保有と運用に関する基本方針

元本の安全性の確保を最重要視し、資金元本が損なわれることを避けるため、安全な金融商品により保管・運用している。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1)平成19年度の資金収支計算書・消費収支計算書の概要

別紙様式1

(2) 学校法人の貸借対照表の概要（平成20年3月31日現在）

別紙様式2

(3) 平成19年度の短期大学における教育研究経費比率（研究経費を帰属収入で除した比率）

教育研究経費比率（平成19年度）

区分	19年度
教育研究経費支出 (a)	216,562千円
帰属収入 (b)	816,348千円
教育研究経費比率 (a) / (b)	26.5%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規定

学校法人桐丘学園 固定資産及び物品管理規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状（①火災等の災害対策,②防犯対策,③学生、教職員の避難訓練等の対策,④ コンピュータのセキュリティ対策,⑤ 省エネ及び地球環境保全対策,⑥ その他）

① 火災等の災害対策

防災については、各号館の各階・各教室・部署等に防火責任者をおき、防災マニュアルに基づき対応することとしている。なお、年1回は防災訓練を実施している。（再掲）

② 防犯対策

学内へ進入した不審者については不審者対応用のマニュアルにより、対応する。

学生駐車場まで校舎から数百メートルあるため、不定期にはあるが、教員が学校周辺の巡視を行い、学生が不審者等からの被害に遭わないよう、対策を行っている。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

年1回避難訓練を実施している。できるだけ多くの学生及び教職員が参加できるような日時の設定にしている（後期ガイダンス時、等）。例年、避難訓練の際には、桐生消防署から職員に来てもらって、避難の際の注意事項や消火器の使い方の講習・実施訓練などをあわせて行っている。

④ コンピュータのセキュリティ対策

サーバ室にはセキュリティシステムを導入してあり、入室権限がないものが勝手に入れないようにしている。サーバに関しては教職員用と学生用とを分けて設置しており、アクセスするにはパスワードによる認証が必要である。さらに学内LANも教職員用と学生用で別になっており、学生ネットワークから教職員ネットワークへは侵入できないようになっており、学生ネットワークから教職員ネットワークへは侵入できないようになっており、セキュリティを高めている。

またサーバにはUPSを設置し、停電が発生した場合に備えている。

⑤ 省エネ及び地球環境保全

大学・短期大学全体として I S O 14001 の認証を受けている。そのため、大学・短期大学として次の 5 つの環境方針を設定している。環境方針および環境目的等に沿って、学生・教職員は大学・短期大学での日常生活を行うため、環境教育の推進やゴミの分別の徹底、廃棄物の削減への努力が日常的に行われている。また、太陽光発電システムの設置・管理を行っている。

《X 改革・改善》の記述及び資料等について

【自己点検・評価について】

短期大学運営における自己点検・評価の位置づけ、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況。

自己点検評価委員会が、自己点検・評価の実施に係る運営をおこない、各学科部局から提出された自己点検報告をとりまとめ、報告書を作成することを任としている。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 18 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲。また今後の教職員の関わり方。

自己点検評価委員会が各事務部署の長及び各学科長に依頼して点検・評価報告書を提出してもらっている。したがって、各部署の長等が直接的には関わることになる。今後の認証評価に向けて、各部署の長だけでなく、一般の教職員が関われるような体制作りを行っていききたい。

(2) 平成 18 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についての実績

各教員に冊子を配布しているので、教育・研究に関して、各教員が自らの短期大学における客観的な評価を把握するのに役だったと考えられる。